第Ⅰ部

教職を目指す学生へ

教員採用試験合格者の経験を聞く

教員採用試験を終えて

A.S.（文学部史学科４年）

はじめに

私は、令和７年度東京都教員採用候補者選考試験に中高共通・地理歴史で合格することができました。採用試験に向けて準備する中で、役立ったと感じること、意識したことなどについて書かせていただきます。少しでも皆さんの参考になることができたら嬉しいです。

1. ３年次前倒し選考

私は橋本先生の講座を受けず、市販の参考書を用いていかに効率よく知識をインプット出来るかを重視して勉強しました。教職・専門教養共に幅広い範囲からバランス良く問題が出題される傾向がありますが、分野ごとの比重が異なるため、分野ごとに優先順位を付けて覚えたり演習問題を解いたりしたのが効果的だったと思います。

試験の勉強に本腰を入れたのは、２年生の２月頃でした。自分的にはゆとりを持って準備ができると思っていたのですが、３年生になってから忙しくなり勉強時間の確保が難しくなりました。試験までの期間に何があるかはわかりません。勉強出来る時に効率よく勉強するよう意識してほしいと思います。

2. 小論文対策

小論文はどこを直すべきか客観視するため、何度も書いて何度も橋本先生に添削指導していただくことが１番効果的です。

受験する自治体と出題傾向が似ている自治体の過去問を使ったり、自治体の求める教師像から自分なりに問題を作って解いたりするのも良いと思います。また、具体例や策の書き方などのバリエーションを増やしたい場合は、友人と小論文を見せ合って良い技術を盗みあうことも良いと思います。

橋本先生が「小論文は書く面接」とおっしゃるように、小論文対策は面接対策にもなりました。小論文を書くために、自治体の求める教師像や具体的な教育施策を把握しておくことで、「自分が教師になった時大事にしたいこと」が明確になるからです。東京都教育委員会のホームページには、東京都の求める教師像や東京型教育モデルなど多くの情報が掲載されています。情報量が多くて確認するのも大変なので、いつでもパッと確認できるように表にまとめることをおすすめします。

試行錯誤して書いた小論文があまり良くない評価を受けると、気分もやる気も落ちますが、本番じゃなくて良かったと割り切って諦めず、秀吉スタンプがもらえるまで頑張ってください。

3. 面接対策

面接対策も小論文同様、練習あるのみだと思います。私は面接が苦手で、言葉を用意しても記憶が飛んで話せなくなってしまいがちでした。ですが、友人と共に練習して良いところや改善点を共有することを繰り返すと、自分なりの型を作ることができ、言葉に詰まらず話せるようになりました。また面接は人柄重視だとされるので、自分の話したいことを用意しすぎず、面接官に聞かれたことに素直な言葉で答えるという意識を大切にしていました。

また、ボランティア先の副校長先生に面接指導をしていただけたことも大変役に立ちました。面接のリアルを知っている方から、面接官が注意する部分等を聞けたり、実際の流れに沿って面接指導していただけたりしたからこそ、自信を持って試験当日を迎えることができました。運が良いことに、試験当日の面接官はボランティア先の副校長先生とタイプが似た方々で、とてもリラックスして試験を受けることができました。

4. 教育実習とボランティア活動

面接では、具体的にどのような生徒を育てたいか、教員になったらどうしたいか、などの質問を多く聞かれます。こうした質問に対して芯のある回答をするのに、教育実習やボランティア活動での経験が役立ったと思います。私は、教育実習やボランティア活動のおかげで、「自分が教員になったらやりたいこと」をより明確するにことができました。先生方がどのように授業を進行して生徒と関わっているかを観察したり、先生方に直接お話を伺ったりすることで、新たな学びを多く得ることができると思います。

私は地元の中学校でのボランティアを、３年生の終わり頃に始めました。ボランティア活動を始めて本当に良かったと思っています。教員になるかまだ迷っている人もそうでない人も、ぜひ挑戦してみてほしいです。

5. おわりに

私にとって教員採用試験は長く大変でありつつも、頼れる先生や友人とともに自分の将来像を明確に描く大切なものであったと思います。自分には無理かもと思っても挫けずここまで来ることができたのは、同じ

志を持って努力する人たちが周りにいてくれたからです。

将来どうなりたいか、教員になるんだ！という気持ちを強く持ち、恵まれた環境を最大限活用して仲間と互いに高めあいながら合格を掴んでください！

色々な場所で色々な人と

R.S.（文学部日本文学科４年）

1. はじめに

私は令和７年度神奈川県公立学校教員採用候補者選考を小学校全科で受験し、合格をいただきました。小学校の教員免許は大学外で取得したため、それも踏まえて「こんな道もある」とお伝えしていけたらと思います。この経験がみなさんの選択肢を広げるきっかけになれば幸いです。

2. 小学校教員免許取得の方法

私は大学２年生の春学期から地元の小学校で学生支援ボランティアをしています。続けているうちに６年間を通して児童の成長を見届けられること、小学生のアグレッシブさに魅力を感じ、「小学校の先生になりたい」という気持ちが強くなりました。しかし大学では文学部日本文学科に在学しているため中学・高校の国語科の免許しか取得できません。教職課程センターにその旨を伝えたところ、通信制大学への入学か教員資格認定試験の受験の２つを勧められました。色々な情報を聞いた上で私は教員資格認定試験を受けることを決め、合格をいただき、小学校教員免許を取得しました。

3. 神奈川県を受けるなら絶対にしておいた方が良いこと

１つ目は「神奈川ティーチャーズカレッジ」に通ったことです。これを１年間通い卒業すると教員採用試験の一次試験が一部免除になります。また同じ教員を志す仲間と沢山出会うことができました。個人で小学校免許の取得に励んでいたため、大学外での仲間はとても心強かったです。「教育とは何か」について色々な意見を聞くことができたり、同期と呼べる仲間もできたりと、とても有意義な期間でした。

２つ目は「教師塾」に通ったことです。これは私の希望する市区町村が、教師を目指す大学生を対象に開講している塾になります。ここでは１年間を通して面接のポイント・小論文の書き方・模擬授業の練習など､主に教員採用試験の対策を見てもらっていました。希望している市区町村ならではの教育方針や現場の先生方とも知り合うことができ、私にとって教師になった後でも安心できる場所ができたような気がしています。

３つ目は学生支援ボランティアをしていることです。「2. 小学校教員免許取得の方法」で少し触れましたが、私は大学２年生から約３年間、主に授業補助や校外学習の引率などをさせてもらっています。直接児童や先生と関わって、見て、学ぶことはとても貴重な経験です。自分の希望する自治体でそのような取り組みをしていた場合は登録することを強くお勧めします。

4. 試験対策

○筆記試験

神奈川県の筆記試験は教職教養・一般教養・教科専門の３種類です。先ほど記載したように私は「神奈川ティーチャーズカレッジ」に通っていたため、教員採用試験で受験したのは教科専門のみでした。（しかし認定試験も受ける関係で教職教養も勉強をしていました。）小学校の教科専門は10教科あるため、とにかく計画的に勉強を始めました。特に学習指導要領は暗記するくらい読み込み、学年ごとの微妙な違いを正確に理解することを徹底しました。

○模擬授業

当然筆記試験に受からなければ論文や面接を受けることができません。二次試験の対策は一次試験が終わった後から取り組み始めました。私が面接･論作文･模擬授業の中で１番時間をかけて対策を練ったのは模擬授業です。神奈川ティーチャーズカレッジと教師塾で何度も練習をし、色々な先生に見てもらいながら改良を重ねました。しかし模擬授業の練習はやるだけでなく、他の人の授業を受けることで気づくことも沢山あります。大学の対策講座なども活用して１回でも多く模擬授業ができる機会に参加しましょう。

○論作文試験

論作文は文章力を上げようとしてしまいがちですが、それよりも大切なのは「自分の考えや意見がしっかりと持てているか」ということです。そのため私はいきなり文章を書くのではなく、色々な問いに対して「自分はこう考える」というのを箇条書きでひたすら書き出しました。こうすることで自分の教育に対する軸が見えてきて、文章が書きやすくなりました。いじめや家庭問題、場面指導など幅広いジャンルで自分の考えをストックしておくと、試験で役立ちます。

○面接試験

面接の対策と論作文の対策はほとんど同時に行なうことができます。なぜならどちらもその人の考えを聞かれているのであって、形式が文章になったか口頭になったかの違いだからです。そのため論作文でストックした自分の考えは面接試験にも活かすことができます。しかし面接のマナーや本番で緊張しないためにも、友達や先生などに協力をしてもらい「慣れておくこと」

は大切です。私は対策本や参考書を見ない方が、より自分らしい答えが言えるのではないかと感じました。

5. おわりに

大学卒業後、教師になりたいという強い気持ちがあるのならば早めの対策をお勧めします。教員採用試験が免除になる制度や現場での経験、何と言ってもそのような努力は自分の自信に繋がります。また勉強や試験対策に思い悩んだ時に助けてくれる仲間や先輩、先生を見つけておくことも大切です。違う校種・教科・自治体であっても「一緒に頑張ろう」と言ってくれる人たちに、私自身とても助けられました。正直大変な期間だとは思いますが、頑張った分だけ結果になったと実感しています。後から「あの時もう少しこうしてれば良かった」と後悔しないくらい頑張ってみてください。応援しています。

憧れの教師を目指して

R.M.（文学部史学科４年）

1. はじめに

私は令和８年度埼玉県教員採用候補者選考試験を受験し、中学校社会科で合格をしました。私は小学生の時から、「チョークを持って板書したい」という憧れから先生になることが自分の将来の夢になっていて、憧れを抱きながら学校生活を送る中で、楽しく充実した日々であったことで、学校という場が大好きになっていました。そして、進路に迷うことなく３年生ではチャレンジ選考に受験し合格でき、４年生の採用試験に臨みました。私が無事合格することができたのは、教員採用試験を受けるにあたり、関わってくださった全ての方々のおかげです。教員採用試験に希望や不安を抱えている方への助けとなれるよう私の経験を話していきます。

2. 採用試験に臨む姿勢

教員採用試験は、ゴールは決まっているが長い自分との戦いです。そのため、自分なりの向き合い方をしっかりと考えることが大切だと思います。私は、毎月【過去問到達度、一月の論文枚数】の目標を決めて取り組みました。また、遊びも我慢しすぎてしまうとモチベーションが下がるので、適度に外出や旅行をしていました。それ以外にも友達とご飯に行ったり運動をしたりして、応援してもらったり励まし合ったりしてモチベーションを維持していました。その中で隙間時間を上手に活用し、自分のペースで臨みました。自分の生活に合い、モチベーションを高く維持できる勉強スタイルをいち早く見つけることが、合格に近づく重要ポイントだと思います。

3. 勉強方法

（1）専門科目（一次試験）

大学３年生チャレンジ選考で受験した専門教養・一般教養については勉強方法について記憶が曖昧なため省略させていただきます。埼玉県中学校社会科の一次試験は自分的にかなり高い壁であったので、採用試験において最も勉強が大変でした。先輩の話から「過去問を研究する」と沢山聞いていましたが、私はその勉強方法が理解しにくかったので、常に過去の傾向がまとまった表を印刷して常に照らし合わせて勉強していました。また、過去問だけでは自分の苦手が見つけにくかったので、中学生のワークを解いて苦手分野を理解しました。その上で、過去問を改めて解いて過去問を３週目では満点を取れるようにしていきました。そして自分が一番効果を実感したのは、分からないこと・覚えられないことをまとめるノートを作ったことです。自分の言葉・表現で覚えることが出来るだけでなく、自分の努力を実感できることでやる気や自信にも繋がりました。実際に試験を終えて思ったことは、公民分野に対しては現代社会を意識した問題が多く出題されていると感じたので、最近の話題についても勉強しておくとより良い結果になると思います。

（2）小論文（二次試験）

小論文は何枚も書いて先生に添削をしてもらって、書き直すことの繰り返しで確実に力が伸びたと実感しました。繰り返し何枚も書く上で私は、論文試験の日から逆算して毎月、【1週間に書く枚数、1か月ごとの到達度】を決めて取り組みました。私の場合、1月までは、週１枚・調べながら書く。2・3月は、週２枚・調べながら書かないように意識する。4･5月は週３枚･1時間で書き上げる。6月は一次試験に専念し、7・8月は過去問から予想問題を作って書くことを実践しました。

論文は書かなければと伸びないと思うので、講座や先生との面談に積極的に取り組むことが大切です。

（3）集団討論（二次試験）

まず、集団討論を実施する自治体が少ないため、練習をするためには自ら積極的に友達に協力を依頼することが大切です。私は教職課程センターを利用している友達に参加してもらうとともに先生に面接官を依頼して練習をしたり、他大学の友達に混ぜてもらって練習したりしました。

実際に試験を終えて集団討論において大切だと感じたことは、「討論を外から見る考え・視点を常に持つこと」です。討論に参加できていない人がいないか、話が課題から離れていないか、という視点を意識することで高得点が取れると思います。実際に試験の際は、受験者は緊張していたり気合が入りすぎて、一方

的に話続ける人がいたり、話が深くなりすぎて問からそれてしまったり、全体的にリアクションがとても大きかったり等で驚きました。

集団討論は「知識」ではなく「一緒に働きたいと思わせること」を面接官にアピール試験である認識することが大切です。本番で広い視野をもって落ち着いて討論できるように、友達に協力してもらい集団討論に慣れることが合格への一歩です。

（4）面接（二次試験）

面接で最も大切なことは、自分の良さを最大限にアピールすることだと思います。そのために、質問に対する自分の回答を沢山考えて面接練習を何回もすることが効果的です。より多くの質問を考える中で、自分がどんな教師になってどんな教育を通してどんな子どもを育てていきたいのか、自分の良さや教師になって発揮できる力は何かが明確になってきます。そして、先生や友達と何度も練習を繰り返すことで新たな発見があったり、面接に対する自信がついたりしてきます。私は「明日も学校に来るのが楽しくなる学級・授業をつくる教師」を大切にし、笑顔や生徒を第一に考える姿勢をアピールすることを意識した面接をしました。

また、私の自治体は場面指導がありました。場面指導では、自分が教員になった時にどのように子どもと関わるのか、指導するのかを伝える試験だと思います。面接官に自分が教員になった姿を想像させることを意識して、取り組めたら良いと思います。

4. おわりに

私は教員採用試験を通して、自分に自信を持つことが出来ました。大学生活の中で、最も努力し自分自身と真剣に向き合うことができたからだと思っています。「教員になりたい」という強い意志と自分が目指す教師像をもって、試験に臨めば結果も伴ってくると思います。教職課程センターの先生や友達と共に、全力で試験に取り組み合格を掴み取ってください。

広い視野で教員をめざそう―後輩へのメッセージ：教員採用試験を振り返って

S.H.（文学部史学科４年）

1. はじめに

私は東京都教員採用候補者選考試験の一次試験で不合格という結果を受けました。正直なところ、発表を見たときはショックを受け、自分の努力が報われなかったという悔しさでいっぱいでした。しかし、東京都の採用試験対策と並行して私立学校の採用試験対策も進めていたおかげで、最終的には私立学校から内定をいただくことができました。

この経験を通して学んだことを、後輩の皆さんに伝えたいと思います。これから教員を目指す皆さんの参考になれば幸いです。

2. 公立学校も私立学校も、基礎学力が全ての土台

公立学校の採用試験でも私立学校の採用試験でも、教職教養と専門教養の知識は必須です。「教員採用試験の勉強をしていれば大丈夫」と思っている人もいるかもしれませんが、それだけでは不十分な場合があります。

特に私立学校の試験では、かなり高度な知識を問われます。私が受験した学校では、専門科目の問題が大学受験レベル、場合によってはそれ以上の難易度でした。教員採用試験の過去問だけでは太刀打ちできない場合もあることをよく理解しておいてください。

私立学校を視野に入れている人は、大学受験レベルまで専門知識を固めておくことを強くお勧めします。高校の教科書や参考書を改めて復習し、基礎から応用まで抜けがないか確認しましょう。私は自分が高校生のときに使っていた参考書を引っ張り出してきて、もう一度解き直しました。また、大学受験用の問題集にも取り組みました。難関私立高校の試験では、受験レベルの問題が普通に出題されます。

公立学校を希望している人も教職教養については同様です。教育法規、教育心理、教育史などの基本事項はもちろん、最新の教育政策や教育課題についても理解を深めておきましょう。文部科学省の資料や教育関連のニュースに日常的に目を通す習慣をつけることをお勧めします。

3. 都立学校を目指す人へ：論作文対策の重要性

東京都の一次試験で不合格だった私の最大の反省点は、論作文対策がまだまだ不十分だったことであると考えています。教職教養や専門教養の勉強には多くの時間を割いていました。また、論作文についてもかなりの時間を割きました。しかし、私は４年次に教職教養、専門教養も受けなければならず、かなり時間がカツカツでした。そのため、論作文対策を120％の力で対策できたかというと「否」です。したがって、後輩の皆様にはいち早く教職教養と専門を仕上げ、論作文対策を徹底することをお勧めします。

論作文は配点が大きく、合否を大きく左右します。筆記試験で高得点を取っても、論作文で評価が低ければ一次試験を突破できません。おそらく私はこのパターンで一次試験で不合格となりました。

後輩の皆さんには、論作文対策を決して軽視しないでほしいと思います。まず、受ける都道府県の過去数年分程度のテーマを調べ、傾向を把握しましょう。教育課題、指導方法、教師の役割など、頻出テーマを整理してください。過去問を見ると、その都道府県が何を重視しているのか、どのような視点を求めているの

かが見えてきます。

次に、自分の教育観を明確にすることが大切です。「どんな教師になりたいか」「どんな教育を実践したいか」を言語化しておきましょう。具体的なエピソードや経験と結びつけて考えると、説得力が増します。

添削を受ける機会を積極的につくることを強くお勧めします。私たちには橋本大先生という偉大な先生がいます。橋本先生に個別面談の時間をつくってもらい、論作文は書きまくって添削しまくってもらいましょう。自分では気づかない論理の飛躍や表現の曖昧さを指摘してもらえます。また、頭を悩ましたテーマでもわかりやすく丁寧にアドバイスしてもらいましょう。そして、徳川家康スタンプ（先生からの一番の高評価）を目指して頑張りましょう。

時間内に書き上げる練習を繰り返すことも必須です。本番と同じ時間設定で、実際に手書きで書く練習をしてください。時間配分、つまり構成を考える時間、書く時間、見直す時間を体に染み込ませましょう。パソコンやスマートフォンでの文章作成に慣れている現代では、手書きで長文を書くことに慣れていない人も多いと思います。実際に手を動かして書く練習をしないと、本番で思うように書けないということが起こります。

論作文は、一朝一夕には上達しません。スポーツと同じで、繰り返し練習することで「書く筋肉」がついてきます。最低でも週に2～3本は書く練習をし、それを添削してもらうサイクルをつくってください。私はこの練習量が圧倒的に足りませんでした。「書けるつもり」と「実際に書ける」は全く違います。本番で時間が足りなくなったり、思うように言葉が出てこなかったりしないよう、十分な練習を積んでください。

4. 私立学校を目指す人へ：模擬授業がすべて

私立学校の採用試験の特徴は、ほぼ確実にどこかの段階で模擬授業が実施されることです。これは公立学校の試験とは大きく異なる点であり、私立学校を受験する上で最も重要な選考要素と言えます。私が受験した複数の私立学校でも、全ての学校で模擬授業がありました。一次選考で実施する学校もあれば、最終選考で行う学校もあります。いずれにしても、模擬授業の出来が合否を大きく左右します。

模擬授業は、徹底的に練習してください。これは何度強調してもし足りません。頭の中でイメージするだけでは全く不十分で、実際に声に出して、体を動かして、授業を再現する練習が必要です。

準備段階では、まず指導案を丁寧に作成することから始めましょう。授業の目標、流れ、発問、予想される生徒の反応などを細かく書き出します。時間配分も明確にしておくことが大切です。

自分の専門科目の重要単元について、いくつか模擬授業の準備をしておくことをお勧めします。学校側から事前にテーマが指定される場合と、当日に発表される場合があります。どちらのパターンにも対応できるよう、複数のテーマで準備しておくと安心です。

実際に声に出して練習することが非常に重要です。頭の中で考えるだけでは不十分です。可能であれば、友人や先生の前で練習し、フィードバックをもらいましょう。私は大学の友人に生徒役をお願いして、何度も模擬授業を見てもらいました。「ここの説明が分かりにくい」「声が小さい」「板書が見づらい」など、具体的なアドバイスをもらえたことが大きな助けになりました。これまた私たちには橋本大先生がいます。私は橋本先生に何度も模擬授業を見てもらい、指導案も添削してもらい、万全な状態で採用試験に挑み合格を勝ち取りました。

時間配分を体に染み込ませることも必須です。模擬授業は10分、15分、20分など、学校によって時間設定が異なります。タイマーを使って、指定された時間内にきちんと収まるか確認してください。何度も練習を重ねることで、体感で時間が分かるようになり、本番でも焦らずに進められるようになります。

導入・展開・まとめの流れを意識することも大切です。短い時間でも、授業の構成がしっかりしていることを示す必要があります。特に導入部分で生徒の興味を引く工夫ができているか、チェックしてください。

5. 教材・資料の準備も手を抜かない

模擬授業では、プリント、スライド、指導案の作成もしっかり行うことが非常に重要です。私が受験した学校では、これらの教材・資料を実際に使用して授業を行い、面接官に提出する必要がありました。教材の質が授業の質を左右すると言っても過言ではありません。

教材作成では、まず見やすく、分かりやすいデザインを心がけることが大切です。生徒が理解しやすいレイアウトを考えましょう。フォントやサイズ、余白、図表の配置など、細部まで気を配ってください。

内容の正確性も絶対に確保しなければなりません。誤字脱字や内容の誤りがないか、何度も確認しましょう。専門的な内容については、参考文献も確認してください。小さなミスでも、面接官の印象を悪くする可能性があります。

生徒の理解を助ける工夫を盛り込むことも重要です。図やイラスト、表などを効果的に使いましょう。重要なポイントが一目で分かるように強調してください。私は視覚的に分かりやすい教材をつくることを心がけ、図表を多用しました。

指導案の完成度も評価の対象になります。本時の目

標、展開、評価規準などを明確に記載しましょう。学習指導要領との関連も意識してください。

これらの教材・資料の質は、自身の授業準備能力や教材研究の姿勢を示すものです。時間をかけて、丁寧に作成してください。私は教材作成に多くの時間を割きましたが、それが評価につながったと感じています。

6. 公立学校と私立学校、両方を視野に入れることの大切さ

私が最も強調したいのは、公立学校一本に絞らず、私立学校も視野に入れて準備を進めることの大切さです。これは単なる保険という意味ではなく、教員になる可能性を最大化するための戦略です。

公立学校の採用試験は倍率が高く、優秀な人でも不合格になることがあります。もし私立学校の準備をしていなかったら、来年度は教壇に立つことができなかったかもしれません。

公立学校と私立学校、両方を視野に入れることで、教員になれる可能性が大きく広がります。また、様々な教育現場について知ることができ、自分に合った環境を選択できます。精神的な余裕が生まれるという点も見逃せません。公立学校一本に絞っていると、「これがダメだったら終わり」というプレッシャーが大きくなりますが、私立学校も視野に入れていれば、「ダメでも他の道がある」という安心感があります。

「公立学校の方が安定している」「私立学校の方が給料が良い」など、様々な意見があるかもしれません。しかし、最も大切なのは、どちらも子どもたちの成長を支える大切な教育の場であるということです。

公立学校には公立学校の良さがあり、私立学校には私立学校の魅力があります。どちらが優れているということはなく、それぞれに特色があります。大切なのは、自分がどのような教育を実践したいか、どのような環境で働きたいかを考えることです。

私は、私立学校で働くことになりますが、公立学校を目指していたときと変わらず、子どもたちと真摯に向き合い、良い教育を実践したいという思いを持っています。

7. 最後に

東京都の一次試験で不合格だったとき、私は「こんなにがんばったのに」と思いました。しかし、そのときにはすでに私立学校の内定があったので大分気持ち的には楽でした。とても悔しかったですが。

一つの試験で不合格になったからといって、それが全てではありません。教員になるルートは一つではなく、様々な道があります。一つの結果に一喜一憂せず、次のチャンスに向けて進み続けることが大切です。

そして、教員採用試験を受ける人で法政大学の教職の講座を受けている人はたくさんいると思います。そういった仲間達とともに頑張る気持ちを忘れず、友人などと支え合いながら合格に向かって頑張ってください。私自身も一緒に自習室で頑張った友人がいたからこそともに切磋琢磨し頑張れたと感じております。

最も大切なのは「どこで」教えるかではなく、「どう」子どもたちと向き合うかということです。教員を目指す皆さんは、きっと子どもたちの成長を支えたい、教育に貢献したいという強い思いを持っているはずです。その思いを大切に、様々な可能性にチャレンジしてください。

応援しています。皆さんが素晴らしい教員になることを心から願っています。

私立学校の採用について

A.M.（キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科　4年）

私は今年度、都内の私立中高一貫校で合格をいただきました。東京都の教員採用試験との併願で私立学校も受けていました。私の経験が少しでも教員を目指している方の参考になれば幸いです。

1. なぜ私立学校を受けようと思ったのか

私が私立学校を受けようと思ったのは、私自身が私立高校出身者だからです。もともと私立学校にある程度親しみがあるため、私立学校も視野に入れながら公立学校の採用試験の対策と両立していきました。また教育実習で母校の私立学校に行ってから、私立学校で働くことについて魅力を感じるようになりました。調べていくうちに、私立学校には本当に様々な学校があることがわかり、自分に合った学校探しが大変でした。

2. 受験校の決定について

私立学校の採用試験は、公立学校とは異なり、自分で受験する学校を探すところから始まります。私は4月に入ったあたりで私立学校の採用が一覧でまとめてあるサイトをなんとなくチェックしたり、私立学校の採用説明会に参加したりしていました。また、大学で私学採用の説明会を聞いた時に「教職人材センター」という人材サイトに登録していたので、そこから採用情報を教えてもらい、応募しました。教育実習やほかの自治体の採用試験の日程との兼ね合いもあり、最終的に私立学校は2校応募しました。公立学校の対策もあるため、東京都の一次試験が終わってから選考が始まる学校を中心に応募しました。

3. 私立学校の採用試験について

私立学校の採用試験は、学校によって様々です。基本的には、書類選考、筆記試験、模擬授業、面接の流れが多いように感じました。私は7月の上旬に応募し、8月上旬に内定をいただきました。

4. 採用試験の対策について

（1）筆記試験

筆記試験はどの学校でも基本的に実施されます。公立学校との違いは、問題の出題範囲や難易度です。私は世界史で募集しているところを探していたので、筆記試験の内容も世界史がほとんどでした。教職教養を出す私立学校もあるようですが、私が受験した学校は専門教養と適性検査のみでした。また、学校によっては筆記試験で教案を書く場合もあります。教案作成がある場合は、受験する学校の生徒がどのような生徒で、学校はどんな授業を求めているのかを把握して書く必要があります。専門教養の対策としては、大学受験の時に使っていた参考書などを用いて対策しました。学校にもよるとは思いますが、私立学校の筆記試験の難易度は東京都の教員採用試験と比べて難しく感じました。教科書の小さい文字で書かれてあるような言葉も出ます。また、論述なども多く出されるため、論述問題を日ごろから解く必要があると思います。適性検査は対策しなくて大丈夫です。普段から勉強していれば、筆記試験は通過することができると思います。

（2）模擬授業

模擬授業ではその学校が求めている授業になるようにつくる必要があります。そのため学校のホームページを隅々まで確認し、授業に反映しました。また、模擬授業の後には質疑応答の時間があり、面接官の先生方から質問が来るため、授業内容についての理解を深めておく必要があります。質疑応答では、この単元を選んだ理由や重視したことといった模擬授業に関することに加えて、指導可能な部活動やなぜ今の学部に入ったのかといった自分自身に関することも聞かれました。模擬授業は必ず先生や友人などに見てもらい、当日まで準備を重ねることが重要だと思います。

（3）面接

公立学校の面接対策に加えて、各学校独自の質問をされます。男女別学なのであれば、どうして別学で働きたいのか、宗教系の学校であればその学校の精神についてどう思っているのかなども聞かれます。私が受験した学校は仏教系の学校だったので、面接では仏教系の学校で働くことについてどう思っているのか、学校の教育理念についてどう思っているのかを聞かれました。面接の対策としては、予想される質問と回答をまとめ、どんな質問でも答えられるようにしました。また場慣れすることも重要です。夏休みに何度も友人と面接練習を繰り返し行いました。また教職人材センターで無料の面接対策をしてもらうこともありました。活用できるものはとことん使った方が良いと思います。

5. 最後に

私立学校に採用されるには狭き門ですが、対策をしっかりすれば無理なものではありません。公立学校の対策は私立学校にも生きます。論作文や面接対策でずっとやってきたことが、私立学校の採用試験の面接で生きる場面もありました。また教員採用試験をともに頑張る仲間を見つけることが近道です。同じ目標を持つ人たちが近くにいることで、面接練習を一緒に行ったりすることができ、自分のモチベーションが高まります。ぜひ周りの友人と助け合いながら、合格を勝ち取ってください。応援しています。

仲間とともに掴んだ合格

K.M.（経営学部経営戦略学科４年）

1. はじめに

今回は、私の経験から、教員採用試験に合格した道のりと特別支援学校の魅力の２つの視点からお話しをしていこうと思います。

2. 教員採用試験は団体戦である

中学校、高校などで、よく「受験は団体戦だ！」などと言われた、もしくはそのような言葉をドラマなどで聞いたことがある人が皆さんの中にもいると思います。私も高校受験や大学受験の時に同じようなことを言われました。私は、受験は自分との戦いだから個人戦であろうという考えでした。その考えをもっていたため、教員採用試験の勉強も個人戦であると考えていました。教員採用試験を終えた今の私が言えることは、教員採用試験は間違いなく、「団体戦である」ということです。このように感じた経緯を以下に記します。

（1）正しい勉強方法を知ることができた

私は教員採用試験の勉強を始めた当初、勉強の内容量が多いだろうということから日本史を中心に勉強していました。

しかし、友人たちから配点の重要性や注力するべき科目を教えてもらい、自分の勉強方法が間違っていたことに気づくことができて、正しい勉強方法に切り替えることができました。私は教員採用試験の勉強中、数多くの友人に支えられてきました。友人たちからのアドバイスが無かったら、教員採用試験に合格することはできなかったことでしょう。

（2）面接練習をすることができた

教職課程センターを利用することで数多くの仲間ができました。私が受験した東京都の教員採用試験では、二次試験に個人面接があります。面接は、複数人で練習することが、合格への近道です。仲間がいたことによって、学校やZoomで面接の練習を行うことができました。二次試験の面接本番前は、お盆休みで大学が

開いていないということもあり、Zoom で 4.5 時間ほど練習を行いました。仲間の存在は、勉強の質の向上に加えて、心の支えにもなりました。

3. 一次試験対策

私が受験した東京都の教員採用試験では、教職教養と専門教養、論作文の 3 つが選考の方法として課せられました。勉強する順番や注力する科目は人それぞれ自由なので、あくまで、参考程度に私がおすすめする勉強方法を記させていただきます。

（1）教職教養と専門教養

私がおすすめする勉強方法は、教職教養から完璧にすることです。教職教養の知識は論作文の作成に大きく生きてきます。制限時間ぎりぎりの中で、質の高い文章を書くことが求められる論作文試験を突破することができたのは、教職教養を先に勉強したことが大きいと感じています。

そして、専門教養は大学入学共通テストレベルの内容で日本史、世界史、地理、政治経済、倫理と幅広く出題されます。そのため、専門教養を完璧にしようとしても、限界があると私は考えています。現に私は過去問を解いていても年度によって正答率にばらつきがありました。

一方で、教職教養は勉強をすればするほど、正答率が安定してきました。

全ての科目で満点を取ることは限りなく難しいです。教職教養と論作文に注力して、専門教養は自分が得意な分野は絶対に正解する、苦手な分野は捨てるくらいの心構えで臨むような姿勢がよいと思います。

（2）論作文

論作文の完成度を上げるポイントは、とにかく枚数を書くことです。論作文の練習を始めた頃と本番前の論作文は明らかに完成度が異なっていると感じます。私のお薦めは、1 週間に 1 本は論作文を書くこと、そしてどんなテーマが出題されてもよいように汎用性の高い文章の柱を複数用意しておくことです。具体的に私の場合は、VUCA（先行きが不透明で変化の激しい今後の社会）な時代に対応できる子どもたちを育てるという柱を主に活用して、論作文を作成していました。論作文を書く練習を重ねていくと必然と自分なりの柱が見つかってくると思うので、ぜひ頑張って書く練習を重ねてください。

4. 二次試験対策

面接練習はとにかくみんなで練習することをお薦めします。仲間と練習することによって、自分の改善するべきポイントを教えてもらえ、面接官の視点に立てるため、面接の時に重要なこと意識することができます。

5. 特別支援学校の魅力

私は、障がいのある兄の影響で幼い頃から障がいのある子どもたちの支援がしたいと思っており、第一志望かつ単願で、特別支援学校を志望しました。皆さんの中にも、特別支援教育に興味があり、併願という形で特別支援学校を希望する方、しようかなと思っている方がいるかもしれません。特別支援学校を第一志望としてきた私から、特別支援学校の魅力を伝えさせていただくと、「成長を日々実感できる」ということです。障がいのある子どもたちは普通の学校に通う子どもたちよりも一人でできることが限られています。特別支援学校の教員は、子どもたちができることが日々増えていく姿を傍で見ることができます。今後の参考にしていただけたら幸いです。

6. 終わりに

教員採用試験を合格するためには多くの人の支えが必要不可欠です。教職課程センターを積極的に活用し、仲間をつくり、お互いに支え合いながら、切磋琢磨して合格を掴み取ってください！皆さんの合格を心から祈っています！

教員採用試験を終えて

S.W.（文学部史学科 4 年）

---

1. はじめに

私は令和 7 年度東京都教員採用候補者選考試験を受験し、中高社会科にて合格しました。私は 3 年次の前倒し選考を受験せず、4 年次に一次試験から受験しました。この結果は教職課程センターの橋本先生をはじめとしたさまざまな人々の協力があってこその結果だと思います。

2. 筆記試験について

①教職教養

東京都の筆記試験の 1 科目である教職教養はとても範囲が広いです。そのため、過去問をひたすら解くという人もいますが、より確実なのは教職教養について要点理解書を購入し、ある程度知識をつけた状態で、過去問題演習を繰り返すといいと思います。私は実際に『教職教養の要点理解』を使用しました、この教材は項目ごとに頻出度のランク付けがしてあり、また重要単語がわかりやすく説明されています。ぜひこの教材をつかってみてください。その後、過去問題を 5 年以上繰り返し解き、傾向をつかみましょう。

②専門科目

私は社会科でその中でも世界史を選択しました。東京都の専門科目のテストは全 20 問中、10 問が共通問題で、歴史、地理、公民、学習指導要領の内容があり、その後の 10 問が選択問題となっています。この際、

最後の10問と学習指導要領、自分の得意分野は絶対に落とさないようにしましょう。私は高校生の頃大学受験のために使っていた教材を使用しました。社会科の専門科目はとにかく範囲が広く、対策が難しいです。諦めずに頑張りましょう。やった分だけ結果が付いてきます。また、過去問題演習を繰り返すことによって教職教養と同じように問題傾向がわかってきます。

3. 論文対策について

論文対策はとにかくたくさんのテーマについて書き、合格答案を増やしましょう。橋本先生に添削をしていただきながら進めましょう。論文は書いているうちに自分の型ができてきます。とにかく繰り返し書き、橋本先生に提出しましょう。ペースは1週間で1枚書けるといいと思います。特に序論にて出題の背景を読み取ることが大切です。私は序論にて以下の言葉を書くことが多かったです。「現代社会は新型コロナウイルスの感染症拡大の影響やグローバル化の進展などの変化が激しく、先行きが不透明である。このような社会において子どもたちに生きる力を身につけさせる必要がある。」本論については文の柱を立て、そこから論、例、策というように書きましょう。結論には今までのまとめや補足、今後の意気込みをいれるとよいと思います。

4. 個人面接について

個人面接についても教職課程センターの橋本先生を頼りましょう。講座にて基礎知識など様々な知識を身に付けることができますが、実践してみることが1番大事です。私には橋本先生と外部の人を招いた本番と同様のような模擬面談の際に失敗した経験があります。面接の最初の方に「なぜ中高選択の際に高校を志望したのですか」という問いに対して「最終的にはどっちでも大丈夫です」という回答をしてしまいました。予想外の質問はあるとは思いますが、その前に聞かれそうな問題については当たり前ですがしっかりと事前準備をしましょう。面接時間は40分と長いです。失敗したことに自信を無くすのではなく、切り替えて自分の教員になりたいという思い、自分なりの教育観をしっかりと持ち、伝えましょう。緊張すると思いますが、それを力に変えて落ち着いて対応しましょう。面接官も教員になりたい意志を真摯に伝えれば、私たち自身のことをわかってくれます。また、ストレス耐性など教員としての資質を問うような質問も試験にて多く聞かれました。事例対応については自らの教育観、そして教職教養や講座にて培った知識を存分に発揮してください。

5. 教員という進路を決める

私は中学生の頃に見た『暗殺教室』というアニメをきっかけに教員になりたいと思い、大学3年生まで思い続けていました。大学3年生の春になり、周りが就職活動を行う中、自分の進路について考えました。私は今の教員の働き方から一度その道を諦め、就職活動をしました。しかしインターンなど少し経験しましたが就職活動にはあまり身が入りませんでした。結局、私は教員という夢を諦めきれませんでした。それはおそらく教員という厳しい職業を選ぶという覚悟ができていなかっただけだと思います。私は仕事を選ぶうえで1番重要視していたのはやりがいでした。そのため教員を志望しました。皆さんも自分は1番何が大切なのか、ゆるぎない1つの芯を見つけ、それを軸に覚悟を決めてください。

6. 終わりに

私は3年次受験をしていなくても受かることができました。教員になりたいという意志が強いのならば、大丈夫です。そして教職課程センターの皆さん、特に橋本先生には大変お世話になりました。学生一人ひとりに寄り添い、理解してくれる先生です。ありがとうございました。

教師になる熱意を持つあなたへ

K.M.（文学部日本文学科4年）

1. はじめに

私は令和7年度東京都教員採用候補者選考試験を受験し、中高共通の国語科で合格しました。これからお話する私の経験・体験が少しでもみなさんのこれからに役立つことができれば幸いです。

2. 試験対策

（1）大学3年生前倒し選考

東京都では「大学3年生前倒し選考」という選考区分があり、私は3年次に受験しました。今、教員採用試験全体を振り返ると、この「大学3年生前倒し選考」を受験し、合格できたことが試験対策においても、自分の精神面においても非常に大きなアドバンテージになったと感じています。試験内容は「専門教養」「教職教養」の2つで3年次の7月に行われました。「専門教養」の対策では、大学受験の時に使用した参考書や古文単語帳、共通テストの過去問等に加え東京都や他の自治体の教員採用試験の過去問に取り組みました。各自治体の教員採用試験の過去問は教職課程センターで借りることができるので活用することをおすすめします。「教職教養」の対策では、教職教養の参考書や東京都の過去問にひたすら何度も取り組み、頭に入れていくようにしました。

冒頭でも述べましたが、私は「大学3年生前倒し選考」を受験することが最も大きなアドバンテージになると思います。「大学3年生前倒し選考」に合格す

ることでその後の勉強に余裕を持てることに加え、受験することによって早い段階から「自分が教員になる」ことについて考える機会を持つことができ、自分自身の知見やコミュニティを広げていく努力をするようになります。この点がその後の私にとって非常に重要なものになりました。

（2）論作文

論作文においては、お伝えしたいことはただ一つ、「教職課程センターを活用すること」です。法政大学市ヶ谷キャンパスではありがたいことに「教員採用試験対策講座」を行ってくださいます。この講座に参加することで、論作文の取り組み方、勉強の仕方が全てわかります。実際、私が論作文の対策として取り組んだことは、講座を受講し、論作文を書き、個人面談で添削をしてもらうことだけでした。

私が論作文に取り組むうえで大切にしていたのが「論作文は一つのテーマを二度書くこと」です。一度目でよい評価をもらえば二度目でそれを定着させ、一度目で修正点をもらえば二度目でよりよいものにする。これができれば論作文は乗り越えられます。

（3）個人面接

個人面接の対策も論作文の試験が終わるまでは対策講座を受講するだけでした。正直なところ、論作文の試験前は論作文の対策や教育実習の準備で面接の準備にまで手が回りませんでした。しかし講座を受講していれば面接のマナーや教職に対する考え方を身に付けることができるため、論作文の試験終了後に面接練習をすれば問題ないと思います。

個人面接におけるポイントは、「多くの人に見てもらうこと」です。私は教職課程センターが行ってくださる面接練習に加え、ボランティア先の中学校でも面接練習を3回させていただき、合計で5人の教員、元教員の方に見ていただきました。多くの方に見ていただき、ご指摘をいただいたことで様々な考え方を取り入れることができ、より現場のことを踏まえた回答が可能になりました。このことが合格の最も大きな要因だと思っています。

3. 最も重要で効果的な試験対策

私が教員採用試験のどの試験科目においても最も重要で効果的だと感じた取組が学校現場でのボランティア活動です。私は地元の中学校で3年次から教育学生ボランティアとして活動をさせていただきました。ボランティア活動を通して、今まで児童、生徒として見てきたものとは異なる学校の見方、感じ方をすることができ、学校現場の難しさや面白さを肌で感じることができました。それが論作文や個人面接での自分の言葉に説得力や強さをもたらしてくれます。ボランティア先で得たことを大学の講座等での学びと組み合わせれば唯一無二の自分にしかない強みができると思います。

4. これを読んでくれているみなさんへ

私は教員採用試験で測られているものとは、「教育への熱意」だと思います。熱意があれば自ら専門教養、教職教養、論作文を学び、知識や能力が身に付く。熱意があれば、自ら様々な体験に取り組み、それが自分の強みになり、さらに教育への熱意が湧き、面接での言葉、振る舞いに説得力が出る。自分の中でどうして教員になりたいのか、教員になった先にどのような自分を描いているのかを明確にし、強い熱意を持つことが、教員採用試験のスタートであり、目指すゴールだと思います。これを読んでいるみなさんはすでに教育や教職への熱意を持っています。あとは自治体のホームページを見にいったり、参考書を開いたり、面談を申し込んだりするという行動に移すだけです。一歩踏み出すと意外と最後までやり遂げられたりするものです。みなさんのきっかけにこの文章がなっていれば幸いです。みなさんが自分らしい道に進めるよう、応援しています。

教員への道のり

M.K.（文学部史学科４年）

1. はじめに

私は東京都の教員採用候補者選考試験、中高共通社会を受験して合格することができました。本稿では私が試験のためにどのような対策を講じたのかを述べさせていただきます。教員を目指す方々の参考に少しでもなれたら幸いです。

2. 試験対策

（1）教職教養・専門教養

私は3年次前倒し選考を受けました。勉強を開始したのは、3年生の5月でした。試験本番まで2ヵ月しか残されていない状態で、大きな焦りとともにスタートダッシュをきった記憶があります。とりあえず教職教養と専門教養の過去問を購入してそれぞれ10年分を2回ずつ解きました。あとはそこで間違えた問題を全てノートに写し、赤シートで答え合わせができるようにして、空き時間で勉強しました。教職教養に関しては教育心理学の部分の知識が浅かったため、動画まとめサイトに載っている動画を電車のなかで見たり、歩きながらラジオ感覚で聞いたりして頭に入れました。専門教養は、大学受験の際に用いたワークを解き直して勉強しました。

（2）論作文

論作文の勉強は、2年生の9月頃から始めました。論作文は上達するのに時間がかかる気がして早めに対

策しましたが、結局サークルや授業が忙しく、本腰を入れたのは3年の9月からでした。3年生の9月当初、書き方は知っていたため、書き進めるのはスムーズでしたが、教育についての知識と理解の甘さが目立ちました。そのため、先生におすすめの本をお聞きしたり、自分で図書館に行って本を読んでみたりしました。トータルで何本書いたか分かりませんが、東京都の過去問から15年ほど遡って様々なテーマに触れ、どんな問題が出題されてもいいようにしました。論作文の勉強の難しいところは書きまくればいいわけではないということです。テーマについて熟考し、背景をしっかり押さえたうえで丁寧に書き進めることが大切だと気づきました。

（3）個人面接

面接の対策を本格的に開始したのは4年生の7月中旬でした。東京都は、個人面接のなかに事例対応が組み込まれているとのことだったので、事例対応についての参考書を買って、できるだけたくさんの事例を集めて練習しました。あとは面接票を作りこみ、そこから想定される質問を考えてました。面接練習で大切なことは、同じ教員を目指す友達の力を借りることと、練習を何度もして自信をつけること、そして子どもたちと関わる機会を設けることだと思います。7月の後半から8月の半ばにある試験まで、ほぼ毎日大学へ行ったり、お盆で大学が開いていない時はWeb会議アプリで友達と質問を出し合ったりして、何度も練習しました。練習を重ねていくと自信がつき、どんな質問がきても落ち着いて対応できるようになりました。実際に東京都教員採用試験の面接を受けてみたところ、子どもと関わった経験の有無やその内容、教育実習について数多く、より深く聞かれたように思います。私は個別指導塾でアルバイトをしていた経験があったため、答えることができました。

（4）合格後の流れ

合格したのち、すぐに郵便で提出が必要な書類が東京都教育委員会から送られてきます。私は合格した安堵でしばらくその書類に手を付けずにいた結果、提出がギリギリになり、冷や汗をかきました。特に教育職員免許状取得見込証明書の写しは申請から受け取りまで時間がかかります。健康診断も期間内に受診する必要があるので十分注意してください。

3. おわりに

教員採用試験の勉強を続けていくなかで、合格に向けて力がついていくことはもちろん、教員として自分はどうありたいかという具体的なイメージを膨らませることができたように思います。試験本番を迎えるまで不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、あくまでも教員採用試験は教員になる過程であって、ゴールではありません。合否に関わらず「今、勉強していることは無駄にならない」と思いながら勉強していたように振り返られます。そんな私の不安な日々を支えてくださった先生や友達に、この場を借りて深く感謝申し上げます。私の東京都教員採用試験の合格は、教職課程センターを中心とした様々な方々の心尽くしによって成し得たものだと思います。皆様、本当にありがとうございました。

不安と向き合った先にあった合格

K.N.（文学部英文学科4年）

1. 初めに

私は令和8年度埼玉県公立学校教員採用選考試験を英語科で受験し、今年度中学校等教員で合格しました。中学生のころからの夢というのもあって、大学に入学した時から教員になりたいと強く思っていました。しかし、いざ教職課程を受けてみると、心が揺らぎました。教員の仕事の面白さもある一方で、「自分に教師が務まるだろうか…」という不安が大きかったからです。結局は教員になってしまうわけですが、このように気持ちが揺らいでしまうという受験生の方は数多くいると思います。

今回の私の経験談では、ひとまず試験対策について大まかにお伝えできればと思います。

2. 試験対策

埼玉県の教員採用試験の場合には一次試験で「専門科目」と「一般教養・教職科目」があります。また3年次で「一般教養・教職科目」を受け、4年次では一次試験が「専門科目」だけで済む、「大学3年生チャレンジ選考」もあります。私自身はチャレンジ選考を使わず一般選考で受験をしたので、どちらの制度を使うべきなのかは分かりませんが、勉強量や受験回数を考えるとチャレンジ選考を受けておいて損はないでしょう。

（1）専門科目

専門科目は、単語、文法、概要把握、読解など、様々な出題がなされます。長文だけ読めればいいわけではないので、文法書を読み込んだり、単語帳を使ったりして勉強しておきましょう。長文は2題ありますが、そのうちの一題は必ず第二言語習得（SLA）の文章です。大学の専門知識を使って読みましょう。過去問を利用して出題の傾向を把握してください。高等学校等教員の問題も活用すると良いです。

（2）一般教養・教職科目

一般教養は国語、数学、理科、社会、英語、美術、音楽から中学校～高校1年生のレベルまでの問題が出題されます。中学校の内容は覚えていないという方

は、一般教養の対策集を活用しましょう。塾講師をしている場合は、塾の教材を使うのも一つの方法だと思います。必ず時事問題が出題されるので、ニュースや新聞を読んで知識をつけてください。そこまで難しい問題は出されないので、ざっくり知識をつけたあと、過去問を利用して対策するのが良いです。過去3年分ぐらいを解くとよいでしょう。

(3) 論作文と集団討論

二次試験は、私自身が一番苦手とした（し、実得点は低い）ので、他の方々の体験談が参考になるかもしれません…。論作文は基本的には練習あるのみです。教職対策講座を利用しましょう。そして様々な考えに触れながら、自分なりの解答を作っておきましょう。

集団討論も練習が最重要です。集団討論を行う自治体が少ないので、練習する機会はあまりないかもしれませんが、仲間を巻き込んで数をこなしてください。

(4) 実技試験

情報が少なく、対策を取るのが難しい試験です。私自身も非常に困りました。教育実習を埼玉県で受けるのであれば、英語科の新任教員に聞くと情報がたくさんもらえると思います。

埼玉県の実技試験は以下の内容で構成されています。

① 場面指導に対して何をすべきか考える
② 音読
③ 場面指導(授業の導入のデモンストレーション)

①は得点には含まれませんが、場面指導で行う内容が提示されます。そこから10分間で実際に自分が行う内容をメモすることができます。ただし、メモは持ち出せないので注意してください。提示される内容は音読の内容に大きく関連していると思われます。スキーマアクティベーションとして活用できます。③は教育実習（事前指導）や英語科教育法で学んだことを生かしてください。時間があれば英語科の仲間と練習することをオススメします。

(5) 個人面接

個人面接は、練習すればするほど回答の幅が広がり、仲間の考えを吸収できます。ぜひ多くの練習を重ねてください。面接対策講座も有効です。

私は個人面接の際、時間になっても呼ばれず、事前準備していた内容がすべて飛んでしまいました。同じ状況に遭遇した際のポイントをお伝えします。

1点目は、深呼吸をして落ち着くこと。焦ると不自然な回答に繋がります。

2点目は、素直に答えること。取り繕おうとせず、等身大の自分で応じたほうが良い場合が多いです。この2点は覚えておくと役立つかもしれません。

3. 最後に

受験期間中は、気持ちが揺らぐことが多々あると思います。そのようなときこそ、「なぜ教員を目指したのか？」に立ち返りましょう。教員になりたいという思いは、試験本番で大きな力になります。

ちなみに、私が教員を目指した理由の一つは「自分が受けた英語の授業があまり面白くなかったから」、そして「英語嫌いな生徒でも楽しめる授業をつくりたいから」です。皆さんにもさまざまな原動力があるはずです。その思いを、特に個人面接でしっかり伝えてください。

「落ちたらどうしよう…」という不安やプレッシャーもあると思いますが、たくさん考え、悩み、努力を重ねて、ぜひ合格を勝ち取ってください。埼玉から応援しています！

気持ちが大事！

S.O.（文学部日本文学科4年）

1. はじめに

私は、令和7年度横浜市公立学校教員採用候補者選考試験（中学・高校国語科）で合格することができました。私は中学校の頃から教員になりたいと考えていましたが、いざ合格し、来年度から教員として働くことを考えるととても不思議な気持ちです。そんな私の話が少しでも参考になっていただけたら幸いです。

2. 一次試験対策

(1) 一般教養・専門教養

横浜市は、一次試験で一般教養（教職教養も含む）、専門教養、論作文と3つの試験（ほぼ4つ）を1日で実施するため、なかなか大変なものでした。

まず、一般教養、教職教養の試験対策を行うにあたっては、書店にある教員採用試験対策（横浜市版）を解いていればまず間違いはないと思います。一般教養と教職教養は、暗記からのアウトプットを意識しました。専門教養は、大学入試レベルの問題が出てくるため、一般教養より難易度が高い問題を解く必要がありました。大学入試対策の問題集を購入し、問題を早く正確に解けるように勉強をしました。最後の最後まで完璧！という仕上がりにはならず、当日も不安で仕方ありませんでしたが、実際合格をいただけたので、不安はたくさんあると思いますが、勉強したら勉強しただけ自信はついてくるので、気負い過ぎず、落ち着いて試験に臨んでほしいです。

(2) 論作文試験

論作文に関して、横浜市は、45分で800字という他の地域とは違い、過酷な条件で論じなければなりません。そのため、当日焦らず書き切るための準備は重

要になりました。3年次11月から教職課程センターへ通い、橋本先生の講座や個別相談に足を運び、論作文を書いていました。最初は、4年次の7月に完璧に書き切れるようになるための逆算をし、まずは時間を気にせず、構成に沿って800字書くことから始めました。また、論作文を書くにあたって、教職に関する知識がなければ書くことが難しいため、最初はインターネットを活用して教育に関する情報を集め、時には教職教養の参考書を見ながら論作文を書きました。

11月から5月にかけてあらゆる条件の論文を書き、当日にどのようなテーマが出てきても大丈夫なように対策をしました。最終的には10枚15枚の合格論文を手にした状態で試験をむかえることができ、当日の安心感に大きく繋がりました。また、教職教養の試験にも生かされたと思います。論作文は数多く書くほど知識は増え、自信にもつながるため、より多く書くことをお勧めします。

3. 二次試験対策

（1）模擬授業

横浜市の模擬授業は試験日当日に3つの単元が提示され、その1つを選択し5分で構成を練り、10分の模擬授業をするというものでした。そのため、最初から1つの教材に絞っての準備ということができないため、あらゆる単元（私の場合、小説文、説明文、古典、詩、話す聞くなど）の授業を事前に準備して試験に臨みました。

対策は一次試験合格を知った後に始めました。二次試験は、他の地域が8月中旬にあるのに対し、横浜市は9月にあるため、教職課程センターの個別相談の予約が被らないように8月末から予約をし、橋本先生のご指導の下行っていきました。

模擬授業においては、いかにして10分間で50分の授業を見せられるかということを意識しました。10分で、この授業の展開、まとめはどのようになるのか、何を生徒に伝え、何を学び取ってほしいのか明確にすることで、試験官も実際私が教員になった際のイメージが湧きやすくなります。

（2）面接対策

面接対策も模擬授業と同じく8月末から対策を始めました。しかし、7月の時点で面接カードを提出しなければならないため一次試験の合間にでも多少面接のことも視野に入れながら進めていくことをお勧めします。面接はその面接カードを中心に進められるため、熟考して書かないと、後々後悔することになります。

面接では自身の教員志望の熱意や横浜市を選ぶ理由に加えて、教職教養の知識やこれまでの経験なども聞かれます。自己を見つめなおし、それを面接の所作をしっかり踏まえた上で堂々と目を見て面接官に伝え、受け答えをすることが非常に大事です！まさに気持ちが大事！です。

（3）場面指導

個人面接のうちの5分間は実際の学校現場を想定した場面指導というものもありました。その対策としては、あらゆる場面を想定し、自分が教師として現場に立っている姿を面接官に想像させ、この人なら現場に立って実際に指導をしてほしいなと思わせることが重要です。子供に寄り添っているか、教師として果たすべき責務を全うしているか、自分自身の人間性を大きくアピールする場だと思います。教育実習が試験前に予定されている方は、実際の教員の方の姿を参考にすると良いと思います。

4. おわりに

このような手順を追い、私は教員採用候補者選考試験に合格しました。私自身振り返っても全く完璧なスケジュールで、安心して当日を迎えることはできませんでした。しかし、教員になりたいという気持ちは変わることなく、その気持ちだけで辛い時期も乗り越えることができていました。テキストの模擬試験が全く解けなくても、面接対策でしっかりとした答えがなかなか返せなくても、絶対に試験に合格し、教員になりたい！という気持ちさえあれば何ごとも頑張れます。ぜひ皆さんにもその気持ちを胸に来年度の教員採用候補者選考の一次試験の日まで頑張ってほしいなと思います。周りの友達、橋本先生などとよく相談し、助け合って、ぜひみんなで乗り越えてほしいです！頑張ってください！

セメントのような生徒を育てていきたい

M.K.（法学部国際政治学科４年）

1. はじめに

私は令和7年度東京都教員採用候補者選考試験に中高共通社会・公民で合格しました。私が合格することができたのは、先生をはじめとする教職課程センターの方々、一緒に頑張ってきた同期のおかげです。これから教員を志すみなさんに少しでも私の経験が役に立つと幸いです。

2. 私が東京都の中学校教員を目指した理由

東京都では、都心部・市部・島しょ部で異なる地域環境が広がっています。各地域資源を活かしながら、生徒の主体性や可能性を引き延ばす体験活動に取り組みたいと思い、東京都を選びました。

中学校教員を志望した理由は2つあります。1つ目は、中学時代の恩師との出会いから自身も生徒を支える側になりたいと思ったからです。2つ目は、無限の可能性を持つ生徒の人生を伴走する仕事に大きなやり

がいを感じたからです。私は中学生を「セメント」のような存在だと考えています。セメントとは、コンクリートとして固まる前の柔らかい素材であり、どこまでも伸びて、どんな形にでもなれるという性質を持っています。義務教育の最終段階にいる思春期の生徒にとって、この3年間はどのような言葉を受け取り、どのような体験をするかによって、その後の人格が大きく形づくられる大切な時間です。私は生徒の一人ひとりの良さや可能性を信じ、その成長に寄り添い続ける教師でありたいと考えています。

3. 一次試験

（1）教職教養

教職課程センターの教職教養対策講座を受講しました。受講することで、毎週水曜日の90分間の勉強時間を確保できます。各自治体の教育委員会のホームページから教育施策を確認することも重要です。参考書は、教職課程センターにある教材を借りて勉強していました。

（2）専門教科

社会科では地理・日本史・世界史・政治経済・倫理と幅広い知識を網羅的に身に付けなくてはなりません。私は、基礎知識を身に付けるために公立高校入試の過去問を解きました。また、中学高校の教科書や大学共通テストの参考書で復習しました。

（3）小論文

「今から5月までに50個の合格論文をつくってください。」2025年1月24日。私が初めて訪れた小論文対策講座で先生から出された目標です。私はこの目標を達成するために週1回、1回の面談時に小論文を2つ提出することを自分の課題にしました。いざ原稿用紙に向かいますが、なかなか書き出すことができません。小論文も「慣れ」が必要なことを実感しました。50枚ほど合格論文を書くと、自身の中で書き方の型が定まります。すると、どのような方向性のテーマが出されても対応できるようになります。早い時期から小論文の対策してください。また、教職課程センターの先生に添削していただくことを強く勧めます。新卒の一番の課題は、教育現場での経験が少ない点です。試験では新卒以外にも臨時採用で担任経験済みなど様々な境遇の人がライバルになります。小論文では実際の教育現場で新任の立場から何ができるかという視点で、自分の考えや取り組みについて論じなくてはなりません。教職課程センターは、教師経験のある先生から添削をしていただける貴重な場です。ぜひ活用してみてください。

4. 二次試験

面接官は聞く姿勢を非常に見ています。実際に余裕があるかどうかではなく、いかに「余裕があるように見せられるか」が大切です。面接時は頷きや笑顔を意識してください。私は鏡の前で話す練習をしていました。面接は実践あるのみです。教職課程センターの先生や同期にアドバイスをいただきながら対策してください。

5. 終わりに

私は、教師も「セメント」のような存在であるべきだと考えています。セメントは建築において接着剤の役割を果たします。教師も同じように、生徒一人ひとりの個性や興味関心に合わせて柔軟に寄り添う存在であることが必要だと思います。また、子どもの成長と幸せのために、学校・家庭・地域をつなぐ信頼関係を築き、学びの環境を整えていくことこそが、教師の役割であると考えています。

本レポートの最後は、実際の面接で出された「1分間で自己PRしてください。」という質問に対して、私の面接官に伝えた言葉で締めたいと思います。

本日は貴重なお時間をありがとうございました。私は東京都の豊かな教育資源を活かした体験活動から生徒の主体性を伸ばす教育に取り組んでいきたいです。新卒は経験不足という課題もありますが、傾聴力や粘り強さという私の長所とスポンジのように吸収しながら学び続ける姿勢は誰にも負けません。結びになりますが、私の名前には「努力が実を結んでほしい。人と人を結びつけるような人になってほしい。」という両親の願いが込められています。私もその意に沿えるように、生徒第一主義を掲げ、生徒と共に学び続ける伴走者のような教師になりたいです。どうぞよろしくお願いします。

頼ることの大切さ

M.I.（現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年）

1. はじめに

私が教員採用試験の勉強を始めたのは大学2年生の冬でした。当初は中学社会での受験を考えていましたが、3年生の2月に「中学免許のみで特別支援学校を受験できる」という制度変更があり、急遽校種を変更しました。特別支援教育についての知識はほぼゼロの状態からのスタートでしたが、限られた時間の中でも着実に準備を進めてきました。ここでは、私がどのように勉強し、どのように対策を進めたかを紹介すると同時に、これから受験する皆さんへのアドバイスを伝えられたらと思います。

2. 勉強方法

○一般教養・教職教養

神奈川県の特別支援学校の一次試験では、一般教養と教職教養の合計点の最低点が100点中30点程度と

比較的低く設定されています。そのため、高得点を狙うよりも、基礎を固めて確実に点を取ることが大切です。私は「初見の過去問で50点以上を安定して取れる状態」をひとつの目標にして学習を進めました。学習自体は大学2年生の冬から始めました。一般教養は、早期の学習のおかげである程度基礎が整っていたため、その後は過去問演習を中心に取り組みました。過去問を繰り返す中で出題の傾向や自分の弱点が浮き彫りになり、重点を置くべき範囲がわかってきました。一方で教職教養は、教育心理、教育法規、教育史など覚える内容が多く、なかなか定着せず苦戦しました。そこで、私は移動時間や授業の合間などの「隙間時間」を活用し、一問一答形式の教材を繰り返しました。皆さんにも、短い時間でも毎日触れることをおすすめします。知識を少しずつ積み重ねていくことが一般教養・教職教養を無理なく学んでいくには一番良いと思います。

○専門教養（特別支援教育）

校種変更を決めた3年生の2月時点では、特別支援教育の知識はほとんどゼロの状態でした。特別支援教育は、理念、障害特性、支援方法、法制度など非常に幅広い内容を扱うため、最初はとても不安でした。私は現代福祉学部に在籍していたため、福祉に関する基礎的な知識はありましたが、専門的な教育内容は一から学ぶ必要がありました。最初は参考書を使って全体像をつかむことから始め、その後は過去問を解きながら解説を丁寧に読み、知識の整理と理解を深めていきました。アドバイスとしては、「焦らずに繰り返すこと」が一番です。特別支援教育は範囲が広い分、急に得点が伸びる分野ではありませんが、過去問を軸に学ぶことで着実に力がつくと思います。

○小論文

小論文対策は大学2年生の秋から教職課程センターを活用して取り組みました。私は文章の構成をまとめることが苦手で、テーマに沿って「教員としての考え」を整理することに時間がかかりました。添削を受けながら書き直す中で、文章の組み立て方や教育的な視点が身についていきました。また、私は考えが散らかりやすかったため、ある程度のテーマごとに型を作り、どんなお題が来てもその構成に落とし込むようにしました。アドバイスとしては、書いて慣れることが一番です。何度も書いては添削を受けることで自分の癖や弱点がよく見えるので、必ず誰かに読んでもらい、自分の型を作ることをおすすめします。

○面接

面接対策は3年生になってから本格的に始めました。面接では「教員としての軸」が最も大切で、ここが定まっていないと話の一貫性が失われてしまいます。しかし、私自身、対策を始めたばかりのころはどこを軸にするべきかわからず、話すたびに軸がぶれていました。そこで、教職課程センターで相談したり、面接シートを丁寧に書き込んだりする中で、「自分が大切にしたいこと」や「目指したい教師像」を少しずつ明確にしていきました。また、教育実習でお世話になった先生方や元校長先生に模擬面接をお願いし、客観的な視点から話し方や内容の深め方について助言をいただきました。特に、自分では気づけなかった癖や話の順序など、他者から指摘されて初めて意識できた点も多く、毎回の練習が大きな学びになりました。皆さんにアドバイスとして強く伝えたいのは、一人で考え込まないことがとても大切だということです。面接は「慣れ」と「修正の積み重ね」で確実に伸びていきます。そのため、友人や先生方に何度も話し、自分の経験のどこが魅力として伝わるのか、反対にどこが弱いのかを見てもらうのがいいと思います。

○模擬授業

模擬授業は、自分の中で構成を作ったあと、多くの人に見てもらうことで改善していきました。教職課程センターの先生だけでなく、教育実習先の先生方、特別支援学校の先生など、立場の違う人からいろいろな視点でアドバイスをもらうことで、自分の授業の課題が見えやすくなりました。特に、教材の視覚化や発問の仕方、伝え方の工夫は、複数の助言を統合しながら自分の中に落とし込むことで、徐々に改善されていきました。ぜひ皆さんも多くの人に指導案と授業を見てもらってアドバイスをいただいてみてください。

3. 終わりに

校種変更という大きな決断から始まった受験でしたが、基礎を固め、苦手を補い、そして周囲の支えを受けながら準備を進めることで、少しずつ自信をつけることができました。この過程を振り返ると、教員採用試験は決して一人で戦うものではなく、むしろ 抱え込みすぎず、誰かを頼ることがとても大切だと強く感じています。私自身、悩んだときに先生方や友人に相談することで視野が広がり、勉強方法や面接の方向性、模擬授業も格段に良くなっていきました。弱点は一人で向き合おうとすると苦しくなりますが、誰かに話すことで次の一歩が見えてきますし、励ましの言葉が力になることも多くありました。みなさんにも、自分の弱点を素直に受け止めつつ、周りの助言を恐れず取り入れてほしいと思います。この経験が、これから受験に挑むみなさんの少しでも背中を押すきっかけになれば嬉しいです。応援しています。

教員採用試験と私

Y.I.（スポーツ健康学部スポーツ健康学科４年）

私は新潟県の教員採用試験（中学校・保健体育）を受験し、合格をいただきました。ここでは、私がどのようにして教員採用試験の対策をしていたかについて書きます。少しでもこれを見た方のお役に立てると幸いです。

新潟県の教員採用試験は、多くの自治体と同様に一次試験と二次試験があります。一次試験では、一般・教職教養、専門教養、実技検査が行われ、二次試験では面接が行われます。

一般・教職教養と専門教養の筆記試験では、知識が全てです。ですが、卓越した知識を持っていないと落ちるというわけではありません。受験者のほとんどが間違えるような難問は、間違えても大きな遅れを取ることはないと思います。重要なのは、受験者の多くが正解するレベルの問題を確実に正解することです。私は知識を身につけるために、赤シート付きの参考書を使いました。読み物としても使えますし、赤シートを使えば問題集になるので、一冊でかなり大きな役割を果たしてくれます。また、過去問の分析も非常に重要です。参考書をやる前に、腕試しで先に一度解いてみるのもいいかもしれません。（私は参考書を１周だけしてから解きはじめました）

参考書にも各自治体の出題傾向が掲載されているので、参考書と過去問で分析すると効率的に勉強を進められると思います。専門教養に関しては、分厚い参考書も持っていると、より専門的な内容を確認したいときに便利です。過去問をやって参考書で復習・確認をして解き直しというサイクルを維持したまま勉強を継続できれば、合格点に達するはずです。

実技試験は、バスケットボール（ドリブルから切り返してレイアップ）、マット運動（側方倒立回転、倒立前転、前方倒立回転）、ソフトボール（壁当て）、武道選択（私は剣道を選択、内容は切り返し）の４種目でした。実技は、春学期に実習の授業を取って練習しました。種目は予め知らされていましたが、内容は当日に知らされるため、対策は大変な方だったと思います。どの自治体を受験される方でも、体育教師を目指す方であるならば相応の運動神経が備わっていると思いますし、実習の授業では専門の先生方から指導していただけるので、あまり心配はいらないと思います。

二次試験の面接は、個人面接①と個人面接②の２つがありました。個人面接①は学習指導や生徒指導等に関する事項、個人面接②は教員としての資質・能力等に関する事項です。

一次試験では、ほとんどの人が合格していたため、面接がかなり重要だったと思われます。面接の対策は、とにかく教職課程センターの先生を信じることです。先生が作ってくださった想定質問の準備をすることと、その想定質問から派生させた質問を自分で考え、加えて準備しておくことは非常に重要ですし、面接で回答する際の軸となります。特に場面指導には定石の対応がありますが、それらは日々の面接練習で学ぶことができます。また、教職課程センターの先生方は、実際に教員採用試験で面接官をされていた方たちなので、面接官としてのアドバイスを毎回してくださいます。そのフィードバックに対して真摯に向き合い続けたことで、毎回の面接練習で必ず成長できたと感じています。さらには、質問をAIに考えさせ、その場で回答を考えるという練習もしました。

本番の記憶はあまり残っていませんが、とにかく自信を持ってはっきりと話すこと、相手の目を見ること、爽やかな顔でいることの３つを意識しました。

最後になりますが、教員になりたいという熱い気持ちで取り組めば、自ずと結果はついてくると思います。自分のベストを尽くして、頑張ってください！

東京都教員採用試験の体験談について

R.O.（経済学部経済学科４年）

1. はじめに

私は今年度、東京都教員採用試験中高地歴、併願で特別支援学校社会で受験し、中高地歴の枠で合格することができました。私が合格できたのは、教職課程センターの方々や先輩方が様々な指導・助言をしてくださったおかげです。教員採用試験を受験するにあたり、私の経験が少しでも参考になれば幸いです。

2. 東京都教員採用試験について

東京都の教員採用試験は、一次試験と二次試験に分かれており、一次では筆記試験（教職教養･専門教養）と小論文、二次では面接が行われます。私自身は神奈川県横浜市出身で、横浜市の教員採用試験を受けるか迷っていましたが、東京都にあった三年生前倒し試験に魅力を感じ、東京都の教員採用試験を受けることに決めました。

3. 三年生前倒し選考

私は三年生の段階で前倒し選考を受験しました。これは、大学三年生のうちに一次試験（筆記）を受け、合格すれば翌年は小論文と面接のみに集中できる制度です。早めに挑戦することで試験の雰囲気を知り、次年度の負担を減らせる点が大きなメリットでした。

ただし、三年生の時期は授業や実習準備なども重なるため、計画的に勉強時間を確保することが必要です。私の場合はあまり対策に時間を取ることができず、来

年の模擬試験のつもりで気楽に受けに行きました。アルバイト先の学習塾で社会科を担当していることもあり、専門教養は割と準備できていましたが、教職教養は本を買ってその一冊で挑みました。無事通過することができ、四年生では小論文と面接に集中することができました。どの自治体を受ける人でも、模試として三年生前倒し試験をどこかの地区で受けることをおすすめします。

4. 小論文対策

小論文は「教育的課題に対して自分の考えを、具体例を交えて論理的に述べる力」が問われます。東京都では「子ども理解」「チーム学校」「ICT 活用」「多様性」「特別支援教育」など、現代教育のトピックが出題される傾向があります。

私は、教職課程センターに伺ったのが遅く、大学四年の四月頃でとてもギリギリの準備になってしまいました。本当なら三年生前倒し試験を受けて合格しているので、一年程前から小論文の練習をすることが望ましいです。教職課程センターに小論文講座があるので三年生の秋学期からきちんと参加することをおすすめします。また、教育実習も春学期にあり、教育実習の準備をしつつ、小論文の練習をしました。教職課程センターに出向くだけでなく、メールでの添削のお願いなども多く行い、できる限り小論文をたくさん書きました。最初は「時間内にまとめるのが難しい」「具体例が思いつかない」と感じましたが、教職課程センターの先生に添削をしてもらううちに、自分の書き方の癖や改善点を明確にできたことで、徐々に安定した文章が書けるようになりました。また、ニュース記事や文部科学省の資料などを定期的に読むようにし、教育の最新動向に関心を持つようにしました。これは小論文だけでなく、面接でも非常に役立ちました。

5. 面接対策

面接では、自分の経験をもとに「なぜ教員になりたいのか」「どのような教師を目指しているか」「児童生徒への対応をどう考えるか」といった質問が多くされます。私は塾での指導経験を中心に、自分が子どもと関わる中で感じたことを整理しておきました。

特に東京都の面接は、受験者の人柄や実際の教育現場での対応力を重視していると感じます。私は教職課程センターの個別練習を予約し、模擬面接を何度も行いました。先生方からは、「解答が長い」「答えが抽象的」といった具体的なフィードバックをいただき、それを次回に改善するよう意識しました。

また、想定質問集の自分なりの解答を作り、通学時間などに口に出して練習することで、本番でも落ち着いて話せるようになりました。面接は「暗記した答えを話す場」ではなく、「自分の思いや経験を相手に伝える場」だという意識を持つことが大切だと思います。

6. 最後に

教員採用試験の準備は長期間にわたり、学習内容も多岐にわたるため、不安や焦りを感じることもあると思います。しかし、私自身がそうだったように、教職課程センターの先生方や周囲の仲間に相談しながら進めていけば、必ず道が開けると感じました。

特に教職課程センターは、情報提供から添削、模擬面接まで丁寧にサポートしてくださる場所です。自分一人で抱え込まずに、積極的に利用することを強くおすすめします。

そして何より、「なぜ自分は教員になりたいのか」という原点を常に意識することが、最終的に大きな支えになります。私自身、試験勉強の途中で悩んだ時期もありましたが、「子どもと関わる仕事がしたい」という思いが原動力になりました。

これから受験を迎える後輩の皆さんも、自分のペースで着実に準備を進めながら、夢に向かって頑張ってください。応援しています。

最後まで全力で

K.K.（スポーツ健康学部スポーツ健康学科４年）

1. はじめに

私は令和７年度横浜市公立学校教員採用候補者選考試験を「中学校・高等学校　保健体育」で受験し、合格をいただきました。試験に向けて動き出すのが遅かった私ですが、横浜市の教員になるために、私が意識したことや取り組んでいたことなどを皆さんにお伝えし、少しでも力になることができたら幸いです。

2. 一次試験

横浜市の教員採用試験では、一次試験で「一般教養」「教職教養」「専門教養」の筆記試験と「論文試験」が行われます。（論文試験は二次試験の試験項目に含まれる。）全体の感想としては、過去問を何度も繰り返し解いて、問題の傾向や空欄になりそうな箇所などを把握し、参考書等で補っていくことをおすすめします。

1.）一般教養

国数英理社さらに音楽や美術とまんべんなく出題されるといった具合に、広範囲にわたる出題になっています。各教科、出題は広範ですが難易度は中学・高校の教科書レベルの問題が多いです。苦手科目を作らないことが重要であり、苦手科目があれば早期から計画的に学習し、一定以上の基礎知識を身に付けておくことが大切です。

2.）教職教養

難易度としては一般教養と同様、教育原理、教育心理、教育法規などの基本的な知識が問われる傾向が強

いです。言葉の意味や内容を知っていれば解けるような問題がほとんどなので、参考書等の内容を確実に押さえておくことが大切です。

3.）専門教養

例年の過去問同様、問題はすべて中学校学習指導要領解説保健体育編に示されている内容から出題されます。教科の目標や体育分野のＡ～Ｈの各領域、保健分野などについての空欄補充問題が幅広く出題されます。また今年は、例年とは少し変わり、文部科学省が出す学校教育活動におけるガイドラインなどから抜粋したような問題も数問ありましたが、基本は学習指導要領解説からしか出ないと考えられるため、丸暗記するのが一番良いです。ただ丸暗記するといっても無謀なので、過去問から空欄になりそうな箇所や傾向を把握したうえで、暗記すると良いと思います。

4.）論文試験

横浜市では、試験当日にテーマ及び字数が発表され、制限時間内（45分）に書きあげる形式となっています。何のテーマがくるのか予想がつかないので、様々なテーマに対応できるよう近年の教育に関する問題を頭に入れておき、小論文を書けるようにしておくことが大切です。制限時間を設け、何度も書いて練習することで本番も余裕をもって取り組めると思います。教職課程センターでは、小論文の基本の書き方を教えていただけたり、添削もしていただけたりするので、是非活用してみてください。

3. 二次試験

中高保健体育二次試験では、「模擬授業」「個人面接」「実技試験」が行われます。二次試験は、実際に現場に出て講師を経験している人など様々な人がいます。その中でいかに自分らしさを出せるかが大事になってくると思います。

1.）模擬授業

試験当日に発表されるテーマを基に、その場で授業の設定検討を行った後、10分間の授業を試験官の前で実際に行います。テーマの予想がつかないので、どのテーマがきてもいいように、すべての単元の模擬授業を作っておくと良いと思います。最初から最後まで完璧に作る必要はなくても、大体の授業の流れは考えておき実践できるようにしておくと、本番も落ち着いて授業を行うことができると思います。

2.）個人面接

模擬授業が終わった後、そのまま試験官と30分程度面接を行います。内容は事前に提出した面接シートを基に、志望理由や自身の経験、考え方などについて聞かれました。しかしこれも、他の受験生の話を聞くと面接官によって聞かれていることがバラバラでした。そのため、理想の教師像や指導観など自身の軸をしっかりと持っておくと、どんな話がきても自身のペースに持ってくることができたり、様々な先生と実際に面接の練習をしたりすることで、どのような質問にも臨機応変に対応できるようになると思います。

3.）実技試験

横浜市では、体育分野Ｂ～Ｆまですべての領域で実技試験が行われます。そのため、どの内容がきてもできるように幅広く練習しておくことが求められます。すべてを完璧にできる必要はないですが、ポイントをおさえて一定以上のレベルでできれば心配することはあまりないと思います。

4. 最後に

私は、試験勉強に対するスイッチを入れるのがかなり遅くなってしまいました。そんな出遅れていた私ですが、周りの先生方は最後まで力を貸してくださりとても感謝しています。試験までに勉強が嫌になることも多々ありましたが、自分の将来の姿を再確認したり、一緒に頑張ってくれる先生や友人たちを思い出したりすることによって、何度も向き合うことができました。皆さんも支えてくれる周りの方々に感謝しながら、合格に向けて全力で取り組んでほしいと思います。頑張ってください。

教員として生きていくために

D.S.（社会学部メディア社会学科４年）

1. はじめに

私は今年度、東京都教員採用試験を中高共通公民科で受験し、合格することができました。昨年度、東京都の大学３年生前倒し選考（教職教養、専門教養）、今年度は３年生前倒し選考通過者選考（小論文）、二次試験（個人面接）を受験したため、少し変わった試験スケジュールでした。ここでは、私の勉強計画や方法、皆さんへアドバイスを書かせていただきます。教職を志す皆さんの力になれたらうれしいです。

2. なぜ東京都で受験したのか

教員を志す皆さんに向け、まず私がなぜ東京都の教員になりたいと思ったのかをお話しします。東京都はほかの自治体に比べ、生徒数が多いことや生徒の雰囲気、学校・地域間の環境の違いが大きく、教員としての資質を高めるのには最適な環境だと感じました。また、研修制度や福利厚生などの面で、近隣の自治体よりも恵まれている点が多く、東京都の教員になろうと思ったきっかけです。

3. 大学３年生前倒し選考について

ここからは採用試験に向けた対策、スケジュールについてお話します。まず、３年次に受験した教職教養と専門教養の勉強についてお話します。

教職教養は、どのような問題が出るのか全く想像がつかなかったため、過去問を一年分解くことから始めました。そこで自分の学力の現在地を知ってから、参考書と教職課程センターの対策講座を利用し、本格的に勉強を始めました。東京都は教職教養・専門教養ともにすべて5択の問題です。出題形式的に、参考書を網羅しすべてを完璧にするよりも、傾向に合わせ勉強する分野を絞った方が効果的だと考えました。このような方針で勉強を進め、当日は想像以上の点数を取ることができました。

専門教養は、3年生前倒し選考では合格するよりも、「来年度確実に合格するために教職教養の腕試しにしよう」と考えていたため、あまり対策せず試験に臨みました。私が受験した東京都は、社会科の専門分野に絞って試験を受けることができます。ですが、専門分野以外の分野の問題もわずかですが出題されるので、広く勉強をする必要があります。こちらも教職教養と同様にすべてを完璧にするというよりも、なんとなく知っておく程度の学力レベルにもっていくことが必要です。専門であった公民科以外の勉強は大学受験向けのYouTubeの解説動画を参考にして勉強していました。学習指導要領は、エッセンスをいくつか抽出し、そこを中心に対策していました。

4. 4年生での選考

次に4年生で受験した、小論文と個人面接の対策についてお話します。これについては、どちらも「数をこなす」ことが一番だと考えます。どのようなことを書くのか、どのように話すのかをシミュレーションすることは重要です。しかし、どれだけ頭の中でシミュレーションしてもいざ話す、書くとなると頭が真っ白になってしまう人が多いと思います。そのため面接慣れ・小論文慣れをすることが、この両者の試験内容での好印象・高得点に近づく最善の手段だと考えています。参考書や教職課程センターの講座を受講し、受験自治体の過去問・予想質問で対策するのはもちろん、その他の自治体の過去問・予想質問にも手を出してみることをおすすめします。

また、小論文や面接では自分の考えや指導法に説得力を持たせることが重要です。私は、都内の中学校で部活動指導員や学生ボランティアとして活動した経験があったため、そこで体験したことや考えたこと、学んだことを小論文や面接のネタにしていました。形態は問いませんが、「学生のうちに学校で働く」という経験をしておくと、教員という職業の解像度が高まる上に、小論文や面接試験の「ネタ」が増えるのでおすすめです。

5. 教員採用試験を受験する上で

これから、教員採用試験を受験する上で様々な壁にぶつかることがあると思います。勉強が思ったよりも進まない、一般企業を目指す友人がどんどん進路を決めていくことへの焦りなど不安になることがあるでしょう。苦しい経験はいつか笑い話になります。苦しいときこそ前を向いて自分の夢に向かって頑張ってください。

6. 最後に

教員採用試験は、あくまで教員としての通過点です。私は、教職課程の授業や教職課程センターの講座で、教員採用試験に合格するための経験だけでなく、どのような教員になりたいのかなど教員として大切なことや必要なこともたくさん教えていただきました。夢や目標に向かって頑張れる経験は貴重です。みなさんも頑張れる経験ができることを大切にしてください。

最後になりますが、ここまで私の話を読んでくださりありがとうございました。教員を目指すにも目指さないにも、自分が後悔しない選択をし、夢に向かってチャレンジしてください。応援しています。

“先生”になるために

H.Y.（社会学部社会政策科学科4年）

私は今年度、埼玉県の高校地歴を受験し、合格することができました。参考にしづらい点が多いかもしれませんが、この合格体験記を通じて少しでも参考になる部分があれば幸いです。

1. 埼玉県の教員採用試験

埼玉県は一次試験で教職・一般教養及び専門教養、二次試験は二日間（実技試験がある教科は三日間）に分けて実施し、一日目は小論文と集団討論、二日目は個人面接と集団面接を行います。一次試験は七月の頭での実施となり、二次試験は初日が八月の頭、二日目は八月中旬と各試験日程の間に猶予があります。

2. 私の受験戦略及び対策法

私は自分の学力にあまり自信が無かったため、一次試験を突破することを目標に、初年度は講師をすることも念頭に置きながらできる限り二次試験対策を進めるという意識で対策を始めました。もちろんですがこの戦略は合格を目指すのであればおすすめしません。私が合格することができたのは、後ほど詳しく話しますが「自分はどう考えるか、現場ではどう立ち回るか」を日常的に考えていたからです。

（1）一次試験対策

埼玉県の一次試験は一般教養（芸術科目を含めた全教科の中学～高校レベル＋教職教養）と専門教養（地歴科の学習指導要領＋地理歴史）からなります。どちらにも共通して言えることは初めに出題傾向を把握し、落としてはいけない分野を把握することです。過

去問を購入すれば過去5年分くらいの出題分野が表になっているので、まだ購入していない人は今すぐこの文章を読むのを中断して購入してください。特に、一般教養は範囲が膨大ですべてを網羅するのは現実的に難しいので、積極的に優先度をつけていってください。専門教養大問一の学習指導要領は丸暗記すれば解けるので一か月前などでも良いのでよく出る文章や各教科の内容の構成は一度丸暗記しましょう。一度でも丸暗記すると、当日完璧に覚えてなくても選択肢を見れば判断できるくらいにはなるので、一度やってみてください。各教科の演習として、教採の過去問を一通り解いた後はセンター試験の過去問を利用しました。

私は一次試験の対策をしながら、その知識を現場でどう使うか、実践できるかを常に意識していました。具体的には教職教養で法律や文書を学ぶとき、自分だったらこの内容をどう実現するかを考えたり、地歴分野で興味のある話題があったときは授業や定期テストでどう扱うかを考えながら勉強を進めていました。また、学校にまつわるニュースやXの書き込みに対しても自分なりに考えるといったことをしていました（この際、教師視点だけでなく生徒・保護者視点でも考える。Xは良くも悪くも様々な意見が見られるので私は重宝していました。）。これらは自分の教育観や、将来の教師像を形づくるのに役立ちました。教育観や教師像の確立は二次試験で一番重要なものとなります。

（2）二次試験対策

埼玉県の二次試験は二日間（実技がある場合は三日間）に分けて行われます。初日が集団討論と小論文、二日目が個人面接と集団面接でした。私はYouTubeで発信している方々の動画を参考に対策をしました。結果は一般的に言われるボーダーラインぎりぎりだったので、やはり一次試験を終えてから対策を始めるのは遅いと思います。難しく考えず、ひとまず教職課程センターに行って練習をしてもらうことをお勧めします。そのうえで、一次試験対策でも述べた自分の教育観、教師像を確立させましょう。これらがあることで試験当日に初めて問われる内容に対しても、ある程度筋の通った回答ができると思います。

また各県の求める教師像や教育政策に目を通し、それに沿って話せる準備をしておきましょう。埼玉県であれば県の教育振興基本計画に埼玉県の目標と課題などが載っているので、すべてを網羅せずともいくつかは目を通しましょう。集団面接等で話のネタが被る可能性も考慮して、一つに絞らず最低でも2，3個ネタを用意しておくと良いと思います。

3. 教育実習

教育実習は数少ない「実践経験」を作れる場です。自分の教育観と教師像を確立している人は、実際の教育活動の中でそれを確認・ブラッシュアップできるチャンスです。面接での言葉を机上の空論にしないためにも、実習前にあらかじめ教育実習で試したいことや知りたいことを確認し、積極的に試していく事をお勧めします。もちろん、あくまでも最優先は生徒です。

4. さいごに

教採受験時に私が会話をした人に新卒はいませんでした。経験の量では、新卒は他の受験者に勝てません。上辺の知識だけでは、経験を伴う主張には勝てません。実習中、皆さんは生徒から「先生」と呼ばれます。私は現役教師には劣りますが、自分を「先生」と呼んでくれた実習先の生徒達に応えるという意識で試験に臨みました。

少しでも私の経験が皆さんの試験対策に役立てば幸いです。

教員を志す皆様へ

A.S.（生命科学部応用植物科学科4年）

1. はじめに

私は令和7年度東京都公立学校教員採用候補者選考の中高、理科・物理に合格しました。支えて下さった方々に感謝しています。これから受験する人が私の経験を活かしてもらえると嬉しいです。

2. 教育実習前後の学習

教育実習での授業範囲を伝えられてから教育実習の期間中は、教育実習に専念していました。

教育実習よりも教員採用試験を優先しても良かったのですが、よりよい実習にしたいと思い、実習前には、教職課程センターで何度も模擬授業を練習しました。

教育実習中は授業準備に追われました。

教育実習の授業範囲を知る以前は、実習前に少しでも教員採用試験の勉強をしておいた方が良いと思い、登下校で余裕がある時には参考書を見るようにしていました。

教育実習が終わってからは、過去問を解いて対策しました。

3. 教職教養・専門教養の対策

教職教養対策は授業の復習です。授業を受けた帰りに毎回復習していました。

特に、教育実習事前講義の内容は重要でよく聞いてメモして復習していました。

専門教養はほぼ中学高校の範囲です。私は見落としていましたが、2024年度以降学習指導要領の問題も少し出題されているようです。過去問は2020年と、2021年の専門教養だけ使いました。登下校の時間を使って昔の参考書を読み返すようにしていました。

教職教養・専門教養ともに過去問をよく復習しました。似たような問題が出やすいので、次に出たときに解けるようにしておくのが重要です。

4. 論文対策

教職課程センターにて、解答用紙をもらい、書いたものを CamScanner で PDF 化して提出していました。教職課程センターでは、論文の意図や背景の理解の解説がありました。また、複数人での実践練習にもできる限り参加していました。

5. 面接対策

面接の前の 1 か月ほど発声練習と緊張対策の練習をしていました。大学 3 年の 2 月ごろに大橋照子先生のアナウンサー講座を受け、1 か月ほど前から発声練習すると、のどが開いて良い声になると知り、練習していました。

また、教職課程センターでの面接練習にもできる限り参加していました。

東京都教育ビジョンの一部を覚えていきました。

6. 使ったテキスト

筆記試験は過去問を使いました。協同出版の過去問を購買で取り寄せしました。GW などに被ると届くのが遅くなるので、早めに取り寄せした方が良いです。

最新の年度の過去問はホームページからダウンロードできます。私が使ったのは 2 年分だけだったので、ホームページからダウンロードでも良いかもしれません。

7. 最後に

長期的に対策しているように見えますが、受験する自治体を決めるのがギリギリだったり、試験範囲をよく見ずに勉強していたりしたこともありました。

諦めずに対策することが重要だと思います。

チャンスは自ら掴み取れ！

S.S.（理工学部創生科学科 4 年）

1. はじめに

私は令和 7 年度実施教員採用候補者選考試験（以下教員採用試験）を 3 つの自治体で受験しました。受験自治体は①神奈川県（高校・数学）、②北海道（高校・数学）、③川崎市（秋季・中高共通・数学）です。兼ねてより第一志望に設定していた①神奈川県は残念ながら合格に至らなかったものの、②北海道と③川崎市で合格をいただきました。

ここでは、自身が行ってきた教職に関わる活動、複数の自治体受験の経験について話していきます。教員になることを考えている後輩の皆さんの参考になれば幸いです。

2. 教職に関わる活動

私は大学入学時より教職を目指していたため、大学入学後は母校高校野球部インストラクター、塾講師に加え、中学校学習支援員等、教職に生かせる活動を行ってきました。学習支援員でお世話になっている学校ではシンガポール修学旅行に介助員として同行しました。この経験は本当に自身の強みになりました。結果的に大学生活で行ってきた活動や経験がベースとなり、教員採用試験の合格を勝ち取れたと考えています。皆さんもぜひ、このような活動をしてみてください。

3. 北海道教員採用試験の受験

神奈川県の併願となる自治体を探していたところ、広大な土地に自然豊かな魅力があふれる北海道に目を付けました。神奈川県と試験日程が重ならないことに加え、一次試験を東京で受けられることを踏まえて北海道の受験を決断しました。

一次試験に合格した後、二次試験では実際に北海道函館市に足を運びました。初めて北海道を訪れ、不安もありましたが、自然の豊かさや地元住民の暖かさに感銘を受けました。実際に足を運ぶことで、北海道の魅力を肌で感じることができました。

9 月下旬に合格発表が行われ、結果的に自身初の合格をいただきました。この経験は教員になるうえで一つ自信となるものでした。

4. 神奈川県教員採用試験不合格からの立ち直り

第 1 志望の神奈川県教員採用試験を終えた際、二次試験の面接や模擬授業で力を十分発揮できたため合格しただろうと考えていました。しかし、9 月中旬の最終合格発表で自身の受験番号はそこに書かれていませんでした。私は人生で、試験のみならず勝負ごとに負けた経験がありませんでした。さらに、身の周りの方々から大きな期待を受けていました。その分、この結果は私に大きな絶望感を与えたものとなりました。家族や友人を含め、お世話になった沢山の方々に連絡することにためらっていました。

絶望感に浸りながら、SNS を見ていた時に偶然、甲子園常連校が昨年地方大会決勝で敗退した際のミーティングの動画が流れてきました。その高校の監督は、「負けたときにこそ、大事な人へ連絡するべきだ。負けた今日でなければ価値がない。Good loser たれ。」という言葉を選手に投げかけていました。私は、その言葉を聞いて、まさに今の自分がやらなければならないことを言ってくれているかのように感じました。その言葉に感化され、急いで、お世話になった沢山の人々へ連絡をしました。私の連絡に対し、周りの方々はすぐ返信をしてくれました。周りの方々の言葉が私の支えになりました。これを通し、試験に合格することがゴールではない、失敗を糧にする力も大事、そして先生になる夢を閉ざされたわけではないということに気

が付きました。

5. 川崎市教員採用試験（秋期選考）の受験

不合格の経験を経て、来年度以降、私はどのような形で教員を務めるのかを考えることにしました。非常勤講師、臨時的任用職員等、沢山の選択肢がありました。そこで、今年度から川崎市にて秋期選考が実施されることを知りました。募集定員が全教科合わせて30人と、かなり厳しい試験だということが分かりました。どんな形であろうと来年度教員になれるのなら、受験資格があるのなら、どのような結果になろうとも、もう一度挑戦する価値があると感じ、受験を決断しました。出願後、1か月以内に一次試験が実施されることに加えて、教育実習がバッティングするという大変過密なスケジュールとなりました。「悔いなく、やりきろう」、そう心に決めてもう一度、教職・一般教養、小論文の対策を神奈川県受験の際よりも熱意をもって取り組みました。

教職課程センターの力を借り、一次試験を突破し、教育実習で一つ自信をつけて二次試験に臨みました。試験終了後は、やりきったなという満足感でいっぱいでした。教職に対する熱い気持ちは十分に伝えられました。迎えた合格発表当日。募集定員30人と募集要項に記載されていたものの、合格は14人ということが分かり、正直「これは厳しいかもしれない」という思いになりました。そのうえで、合格者の番号を見ました。自分の番号が記載されていました。心から嬉しいなという思いと、本当によくやった、やり切れたなという達成感でいっぱいになりました。挑戦した価値があったなと実感しました。

6. 最後に、後輩の皆さんへメッセージ

今、本当に紆余曲折な大学4年目だったなと感じています。神奈川県にストレートで合格していたら得られなかったものもありました。不合格の結果を見た時は、相当苦しかったです。しかしこれは、神様がくれた素敵な教員になるために乗り越えるべき試練だったかもしれません。私にとっては必要な経験だったと感じています。めげずに頑張ってよかったと心から思うと同時に、合格させていただいた感謝を胸に、粉骨砕身、生徒のために働こうという決意が固まってきました。

そして、後輩の皆さんに私が一番伝えたいことは、「チャンスは自ら掴み取る」ということです。自ら学ぶ姿勢を忘れないでほしいです。これは教員になる前も、なった後も大切なことだと思います。

また、ここには合格を勝ち取った先輩方が合格体験記を執筆していると思いますが、合格することがゴールではありません。合格するためではなく、教員になったときに、どんな教員になって、どう生徒を育てていきたいのか、自分の核をきちんと持ったうえで、思う存分、自分の良さを試験でアピールしてほしいと思っています。

最後に、私は同じ教員として、後輩の皆さんと一緒に輝ける日を楽しみしています。頑張ってください！

教採、就活、研究

R.H.（理工学研究科修士２年）

1. はじめに

私は、令和8年度千葉県・千葉市教員採用候補者選考（令和7年度実施）において、中高共通・理科を一般選考で受験し、合格をいただくことができました。ここでは、千葉県の教員採用試験の概要と、私が教員採用試験を受験するに至った経緯について述べたいと思います。この合格体験記が、皆さんの参考になれば幸いです。

2. 一次選考について

千葉県の教員採用試験の一次試験は、教職教養、専門教科、集団面接で構成されており、会場は幕張メッセでした。

教職教養および専門教科はマークシート形式で、難易度は比較的やさしいと感じました。私は教員採用試験を受験すると決断した時期が遅く、十分な試験対策を行うことができませんでした。そのため、試験直前にYouTubeの分かりやすい解説動画を、通学時の電車内で視聴する程度の勉強にとどまりました。

集団面接では本番で二つの課題が出されました。一つ目は、提示された課題について自分の考えを述べるものでした。そこでは「結論を先に述べ、理由を簡潔に説明すること」を意識しました。二つ目は、5～6人程度の受験者で課題について15分ほど討論を行うものでした。二つ目の課題では、論理性、協調性、積極性が見られていると感じたため、これらを意識して発言するよう心がけました。

受験日は7月6日で、一次選考の合格発表は7月25日でした。

3. 二次選考について

二次選考は、適性検査、個別面接、模擬授業で構成されており、会場は実際の県立高校の教室でした。

適性検査は性格検査のような内容であり、特別な対策はせず、ありのまま回答すればよいと感じました。

個別面接および模擬授業については、一次選考通過後に辻本先生にご連絡し、アドバイスをいただきました。個別面接では、自己紹介や大学時代の活動について深く質問されるほか、志望動機や、具体的な場面を想定した対応について問われました。私は、学部生時代に行っていた学習支援のボランティアや、塾講師の

アルバイト経験について話しました。教員になりたい理由を、具体的なエピソードを交えて伝えることで、面接官に納得してもらうことが重要だと感じました。また、教員の不祥事について質問される場面もあったため、日頃から教育に関するニュースに目を向けておく必要があると思います。

二次選考の試験日は8月16日で、合格通知が届いたのは9月30日でした。

4. 教員採用試験を受けるまでの経緯

千葉県の教員採用試験の一次選考は7月に行われますが、私はその直前の4月まで、一般企業への就職について悩みながら就職活動を行っていました。中学・高校時代から学校の先生になりたいという思いはありましたが、就職している友人や先輩の話を聞く中で、一般企業で働くことにも関心を持つようになっていました。

しかし、就職活動を通して自己分析を進める中で、自分が何に関心を持ち、何を大切にして働きたいのかを考えるほど、教育への関心が強いこと、そして自分が理想とする働き方は教員であることが次第に明確になっていきました。また、一般企業への就職を考えた動機も、将来的に教員になることを見据えた上での選択肢であるとわかりました。

一方で、大学院で研究も行っており、研究と就職活動をどのように両立させるかについても悩んでいました。就職活動に関しては、「なるべく多くのエントリーシートを書き、数で勝負する」といった助言を受けることが多かったのですが、そのような進め方を十分に行う時間的余裕はありませんでした。

そこで時間的余裕もなく、将来について決断しきれなかった私は、就職活動では第一志望群と考えていた5～7社のみ本選考を受験し、もし不採用であれば教員採用試験を受験するという選択をすることで、自分自身が納得できる形を取りました。その結果、就職活動ではご縁がなく、教員採用試験を受験することにしました。

5. おわりに

この合格体験記を読んでいる方は、すでに学校の先生になると決めている方もいれば、まだ進路に悩んでいる方もいるかと思います。

私が進路を決断する中で大切だと感じたことは、「こうあるべき」という考えにとらわれるのではなく、自分自身が納得できる選択をすることだと思いました。そのために抱える悩みや葛藤も、将来振り返ったときに、必要な過程だったと思えると思います。周囲の人を頼りながら、無理をせず、自分のペースで頑張ってください。皆さんの未来が、明るいものになることを願っています。

教員採用試験のその先まで

K.M.（理工学部創生科学科４年）

1. はじめに

私は令和7年度東京都公立学校教員採用候補者選考を受験し、3年前倒し通過者選考の中高共通･理科（物理）で合格しました。この合格体験記では、教員採用試験を受験するにあたって特に役に立ったことを書かせていただきます。この体験記が少しでも皆様の参考になれば幸いです。

2. 3年前倒し選考について

東京都は令和5年度から3年前倒し選考を始めましたが、この選考方法の受験者の通過率は75％近くとなっています。3年生の時点で第一次選考の小論文を除く教職教養と専門教養試験筆記試験を受験します。これで通過すると、4年次で第一次選考の教職教養と専門教養試験を免除されるという大きなアドバンテージを得ます。安心感、小論文や二次試験の対策のための時間を得ることができます。

また、3年前倒し選考を受ける受けないに関わらず、教員採用試験はスケジュール管理が大事です。週単位ほどの計画を立てながら勉強を進めましょう。4年に一次試験を受ける方は、教育実習の日程を考慮して早めに勉強に取り掛かるよう計画しましょう。

3. 教職教養・専門教養について

みなさんが一番なじみのある勉強方法で挑む試験が教職教養・専門教養です。定期試験や入試のための勉強と同じく、基本は一人で進めることになるかと思います。ただしその試験範囲はかなり広いものになります。教職教養は、教育制度や法律、教育史や教育心理学、東京都ならではの教育施策について出題されます。専門教養においては、大学受験の共通テスト程度の難易度です。基礎知識を確実に身に付けていけば合格点に必ず届きます。

私は他の人と比べて勉強時間が短く、自己採点の結果は芳しくありませんでした。原因は計画性の無さにあると考えています。参考書での勉強を終わらせる、等の勉強量の計画ではなく、過去問で○点を取る、といった点数で細かく計画を立てるとよいと感じました。

4. 小論文・個人面接について

一次試験と二次試験に分けず、敢えてこのような章立てにしたのは、試験対策の方法が異なるからです。教職教養･専門教養は前述の通り一人で勉強しますが、小論文・個人面接の対策は教職課程センターを利用すべきです。

東京都の小論文は1050字以内を70分で書き上げなければなりません。その場でテーマに対し深く考え、

方策をまとめ上げることは不可能に近いです。そのため多くのテーマに該当するテンプレートを用意することになります。私は教職課程センターで10回以上の丁寧な添削や、模擬試験をしていただいた結果、当日の試験で慌てることなく小論文を書ききることができました。

また二次試験の個人面接対策についても同様に教職課程センターを利用しました。面接票の記入内容から本番同様3人の面接官と行う面接練習まで、とても手厚いサポートを受けることができました。当日は私と面接官の方々の双方が終始にこやかで、終了後に合格を確信できるような面接にすることができました。

5. 一番大切なこと

各試験内容に関してさらに詳しい対策方法は教職課程センターで学べます。みなさんに注力していただきたいことは「自分磨き」です。小論文や面接の中身となり、教員人生を歩むために大いに役立つであろう教育現場の経験を積みましょう。教育実習にて教職課程で学んだ授業法を実践するもよし、中学校の部活動支援員として生徒と関わるのもよし、宿泊学習の引率や授業中の生徒のサポートを行うのもよし、別室登校の生徒のサポートをするもよし。就活や試験対策で忙しくなる前の今がチャンスです。

また人との縁や機会も大切にするとよいと思います。教職課程センターをはじめ、教職科目の先生方、実習校の先生方、ゼミの教授と、挙げれば限りがありません。教育現場での経験で述べた具体的な内容のほとんどは実習校でさせていただき、管理職の先生には小論文の添削や面接練習までしていただきました。私の所属する柳川ゼミに関しては、教育関連の本の輪読に加え不登校について卒業研究を行えるほど自由にさせていただいています。

ここまで読んでくださった方なら教員採用試験はきっと合格できます。教員採用試験のその先まで見据え、今から行動しましょう。みなさんと一緒に教育に携わることを楽しみにしています。